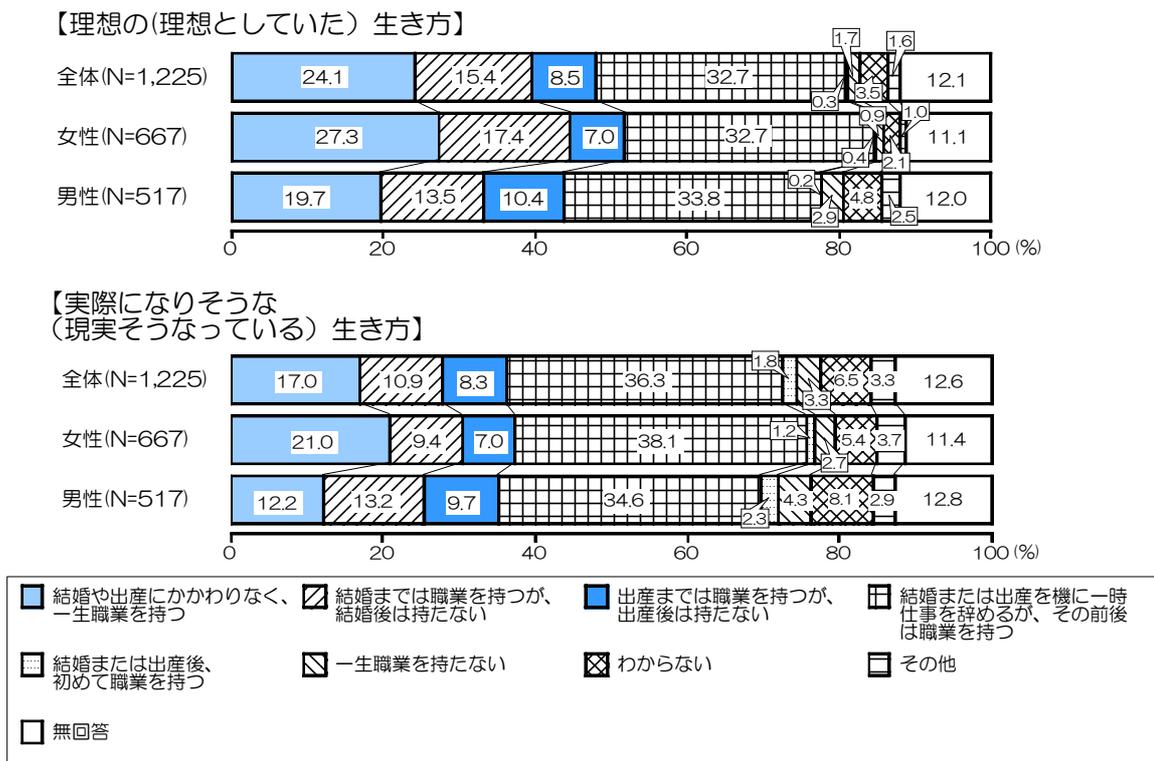


5 就労について

5-1 女性の理想の生き方・実際の生き方

問18 次にあげる就職と結婚、出産を中心にした「女性」の生き方のうち、あなたにとって（男性の場合、あなたの妻にとって）、（1）理想とするものと、（2）実際になりそうな（現実になりそうになっている）ものは、どれに近いですか。（1）、（2）それぞれについて番号を記入してください。※なお、未婚の方は結婚したと仮定した上で、あなたのお考えをお答えください。

図5-1 女性の理想の生き方・実際の生き方



《ポイント》

- 理想の生き方では「結婚や出産を機に仕事を辞めるが、その前後に職業を持つ」という割合が男女ともに最も高く、「結婚や出産にかかわらず、一生職業を持つ」という割合は女性で高い。
- 実際の生き方では、「結婚や出産を機に仕事を辞めるが、その前後に職業を持つ」という割合は、理想の生き方よりも増加し、「結婚や出産にかかわらず、一生職業を持つ」という割合は減少している。

女性の理想の生き方について、全体では「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」が32.7%と最も高く、次いで、「結婚や出産にかかわらず、一生職業を持つ」が24.1%、「結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない」が15.4%となっている。

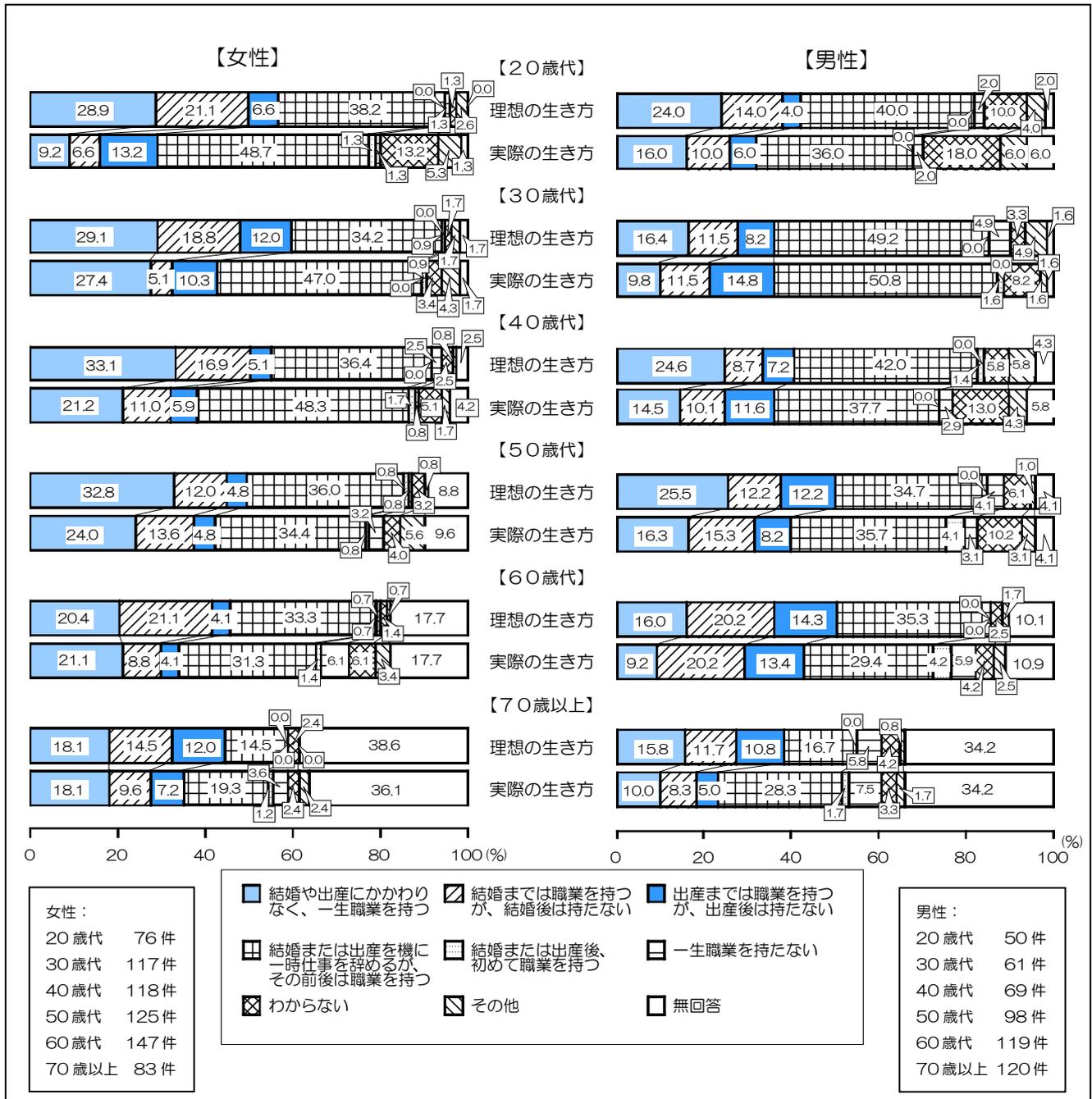
性別にみると、女性が高い項目は「結婚や出産にかかわらず、一生職業を持つ」で7.6ポイント、「結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない」で3.9ポイント男性よりも高くなっている。逆に、「出産までは職業を持つが、出産後は持たない」では男性の方が3.4ポイント高くなっている。

実際の生き方について、全体では「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」が 36.3%と最も高く、次いで、「結婚や出産にかかわらず、一生職業を持つ」が 17.0%、「結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない」が 10.9%となっている。

性別にみると、「結婚や出産にかかわらず、一生職業を持つ」、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」では女性が、「結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない」では男性の方が高くなっている。

理想の生き方と実際の生き方を比較すると、全体では、「結婚や出産にかかわらず、一生職業を持つ」、「結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない」では理想と比べ、実際の方が割合は低く、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」では実際の方が割合は高くなっている。また、理想の生き方と実際の生き方の差が大きいのは、女性で「結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない」で 8.0 ポイント実際の方が低く、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」では 5.4 ポイント実際の方が高くなっており、「結婚や出産にかかわらず、一生職業を持つ」では男性で 7.5 ポイント実際の方が低くなっている。(図 5-1)

図5-1-1 性年齢別 女性の理想の生き方・実際の生き方



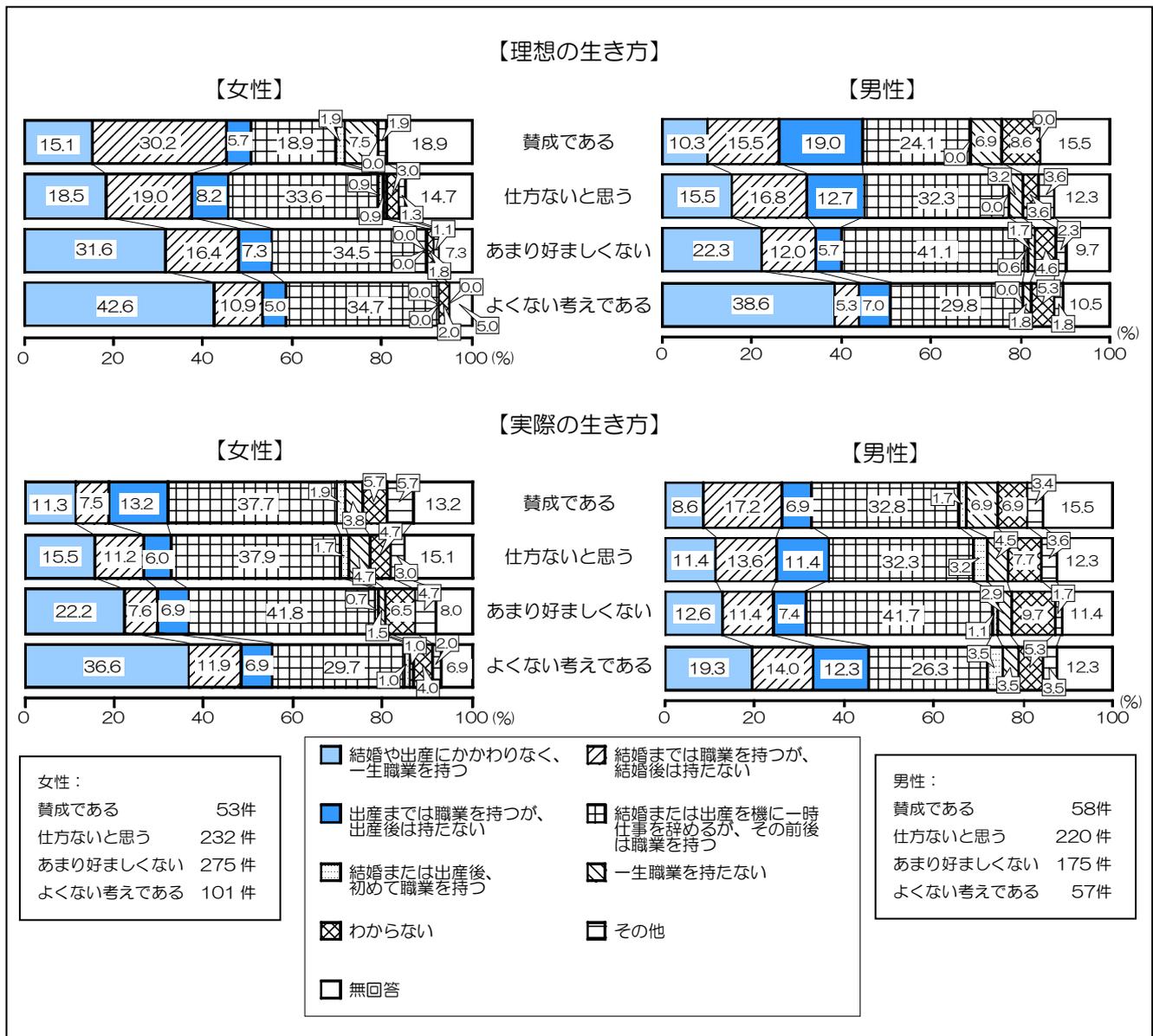
《ポイント》

- 理想の生き方で、「結婚や出産にかかわらず、一生職業を持つ」という人は女性の40歳代で最も高い。
- 実際の生き方では、女性の20～40歳代では「結婚や出産を機に仕事を辞めるが、その前後に職業を持つ」という人が半数近く、男性の30歳代では半数以上を占めている。

性年齢別にみると、理想と実際の生き方の差は、女性では、30歳代で「結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない」が理想の生き方で13.7ポイント高く、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」が実際の生き方で12.8ポイント高くなっており、結婚を機に仕事を辞める考えが、実際はその後も仕事をしている状態がうかがえる。「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」は年代が上がるほど、実際の生き方で割合は低くなり、理想の生き方との差は小さくなる傾向にある。男性では、理想の生き方で「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業

を持つ」と回答した人は 30 歳代 (49.2%) を中心に若年層で高く、年代が上がるほど割合は低くなっている。「結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない」、「出産までは職業を持つが、出産後は持たない」は 50 歳代以上の年代で高くなっている。一方、実際の生き方では、全ての年代で「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」の割合が最も高くなっている。(図 5-1-1)

図 5-1-2 固定的役割分担意識別 女性の理想の生き方・実際の生き方



《ポイント》

- 理想の生き方、実際の生き方で男女とも、「結婚や出産にかかわらず、一生職業を持つ」という人の割合は固定的な役割分担に否定的な人ほど高い。
- 理想の生き方で、女性は、固定的な役割分担に肯定的な人ほど「結婚後は職業を持たない」という人の割合が高い。
- 理想の生き方で、男性は固定的な役割分担に肯定的な人ほど「出産後は職業を持たない」という人の割合が高い。

女性の理想の生き方について、男女の固定的役割分担意識別にみると、「結婚や出産にかかわりなく、一生職業を持つ」という人は、男女とも固定的な役割分担に否定的な人ほど高く、役割分担は「よくない考えである」が女性では42.6%、男性では38.6%と高く、「賛成である」という人と比べると女性で27.5ポイント、男性で28.3ポイント高くなっている。逆に、女性では「結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない」が役割分担に肯定的な人ほど高く、男性では「出産までは職業を持つが、出産後は持たない」で同様の傾向が見られる。

実際の生き方については、女性は、固定的な役割分担に否定的な人ほど「結婚や出産にかかわりなく、一生職業を持つ」は高くなっており、役割分担は「よくない考えである」という人は「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」が女性では29.7%、男性では26.3%でいずれも最も低くなっている。(図5-1-2)

図5-1-3 女性の就職と結婚、出産に関する「実際の生き方」(理想の生き方別)

		女性の実際の生き方									(%)
		全体	結婚や出産にかかわりなく、一生職業を持つ	結婚後は職業を持つが、結婚までは持たない	出産後は職業を持つが、出産までは持たない	仕事や結婚を辞めるが、その前後は職業を持つ	結婚または出産後、初めて職業を持つ	一生職業を持たない	わからない	その他	無回答
女性											
女性の理想の生き方	一生職業を持つ	182	33.0	7.7	8.2	34.6	0.5	2.2	7.1	3.3	3.3
	結婚退職をする	116	20.7	18.1	6.9	39.7	2.6	3.4	4.3	2.6	1.7
	出産退職をする	47	27.7	4.3	14.9	34.0	0.0	2.1	0.0	6.4	10.6
	結婚・出産退職後、再就職をする	218	16.5	9.6	6.4	52.8	1.4	2.8	5.0	3.2	2.3
男性											
女性の理想の生き方	一生職業を持つ	102	38.2	7.8	6.9	29.4	1.0	2.9	7.8	2.9	2.9
	結婚退職をする	70	0.0	44.3	7.1	31.4	5.7	4.3	2.9	1.4	2.9
	出産退職をする	54	11.1	13.0	31.5	35.2	0.0	3.7	1.9	1.9	1.9
	結婚・出産退職後、再就職をする	175	6.9	9.7	11.4	54.9	2.9	3.4	8.6	0.0	2.3

※スペースの都合上、「女性の理想の生き方」の項目の文を短縮している

「結婚や出産にかかわりなく、一生職業を持つ」→「一生職業を持つ」

「結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない」→「結婚退職をする」

「出産までは職業を持つが、出産後は持たない」→「出産退職をする」

「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」→「結婚・出産退職後、再就職をする」

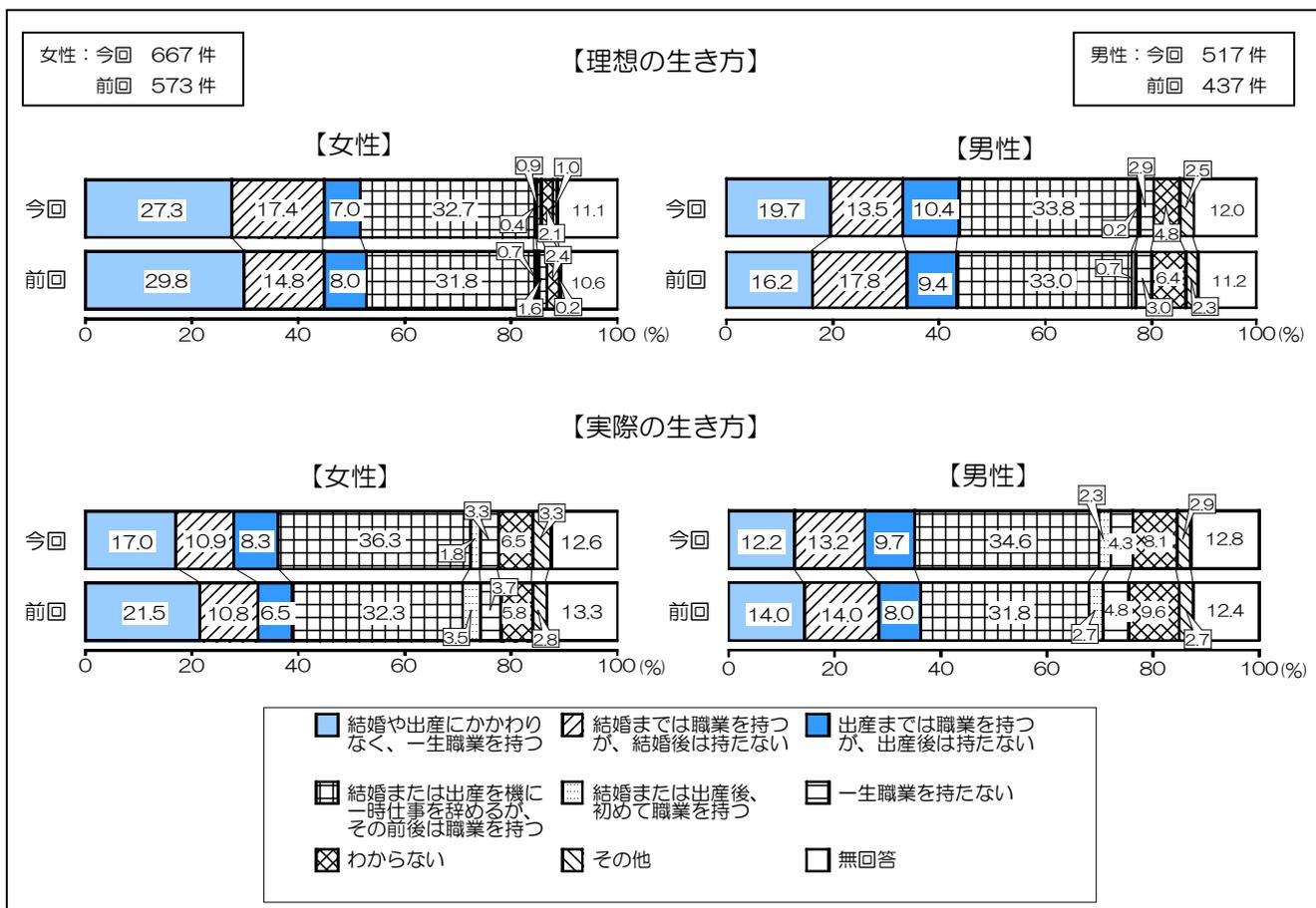
《ポイント》

- 実際の生き方が理想の生き方どおりになっている人は、男女とも、「結婚・出産退職後に再就職」している人で最も多く、半数を超えている。
- 女性では、理想の生き方で「一生職業を持つ」という人が実際の生き方で理想どおりになっている人は33.0%で、「結婚・出産退職後に再就職」している人の方が、34.6%と高くなっている。

女性の理想の生き方について、主な4つの意見別に女性の実際の生き方をみると、理想と実際が一致している人の割合は、男女とも「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」という人で、女性では52.8%、男性では54.9%となっている。女性では、理想の生き方で「結婚や出産にかかわりなく、一生職業を持つ」という人の割合は、実際の生き方で理想どおりになっている人は33.0%で、

「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」という人の方が1.6ポイント高い。
 また、結婚退職、出産退職を理想としていた人は、実際では、結婚退職、出産退職後に再就職している人の方が多。男性では、結婚退職を理想としていた人は実際でも44.3%の人が理想と一致している。
 (図5-1-3)

図5-1-4 前回調査比較 女性の理想の生き方・実際の生き方



《ポイント》

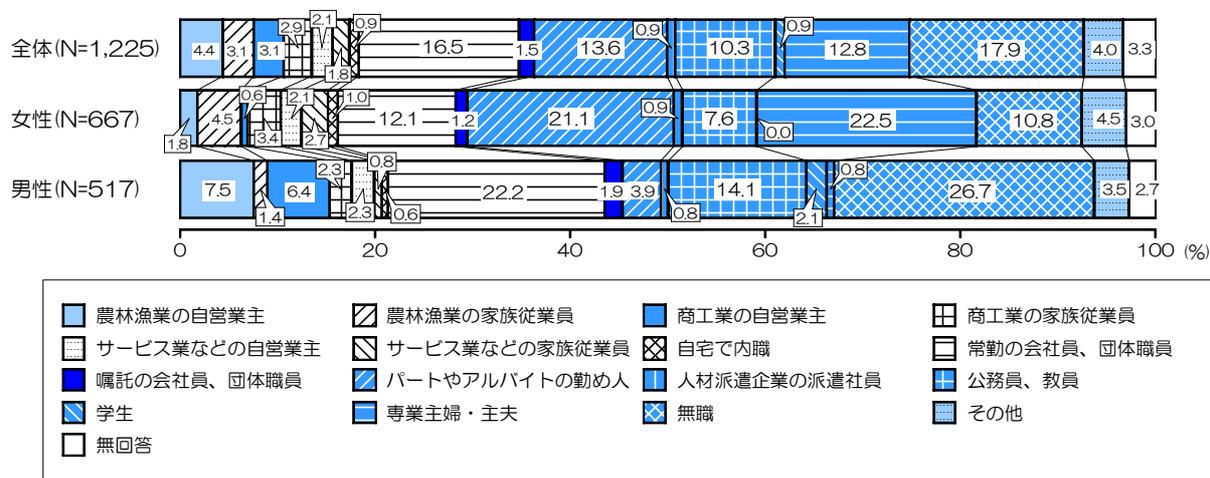
- 理想の生き方で、「結婚や出産にかかわりなく、一生職業を持つ」という人の割合は女性で減少、男性で増加している。
- 実際の生き方では、男女とも「結婚や出産を機に仕事を辞めるが、その前後に職業を持つ」という人は増加している。

前回調査と比較すると、理想の生き方では、「結婚や出産にかかわりなく、一生職業を持つ」は女性では若干減少し、男性では増加している。一方、「結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない」は女性で増加、男性で減少している。前回調査よりも女性は『結婚して仕事を辞める』、男性は『女性に仕事を持って欲しい』とする考えがやや強まっている。実際の生き方では、男女とも「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」は増加している。女性では「結婚や出産にかかわりなく、一生職業を持つ」が減少している。(図5-1-4)

5-2 職業

問19 あなたのお仕事は。(1つだけに○印)

図5-2 職業



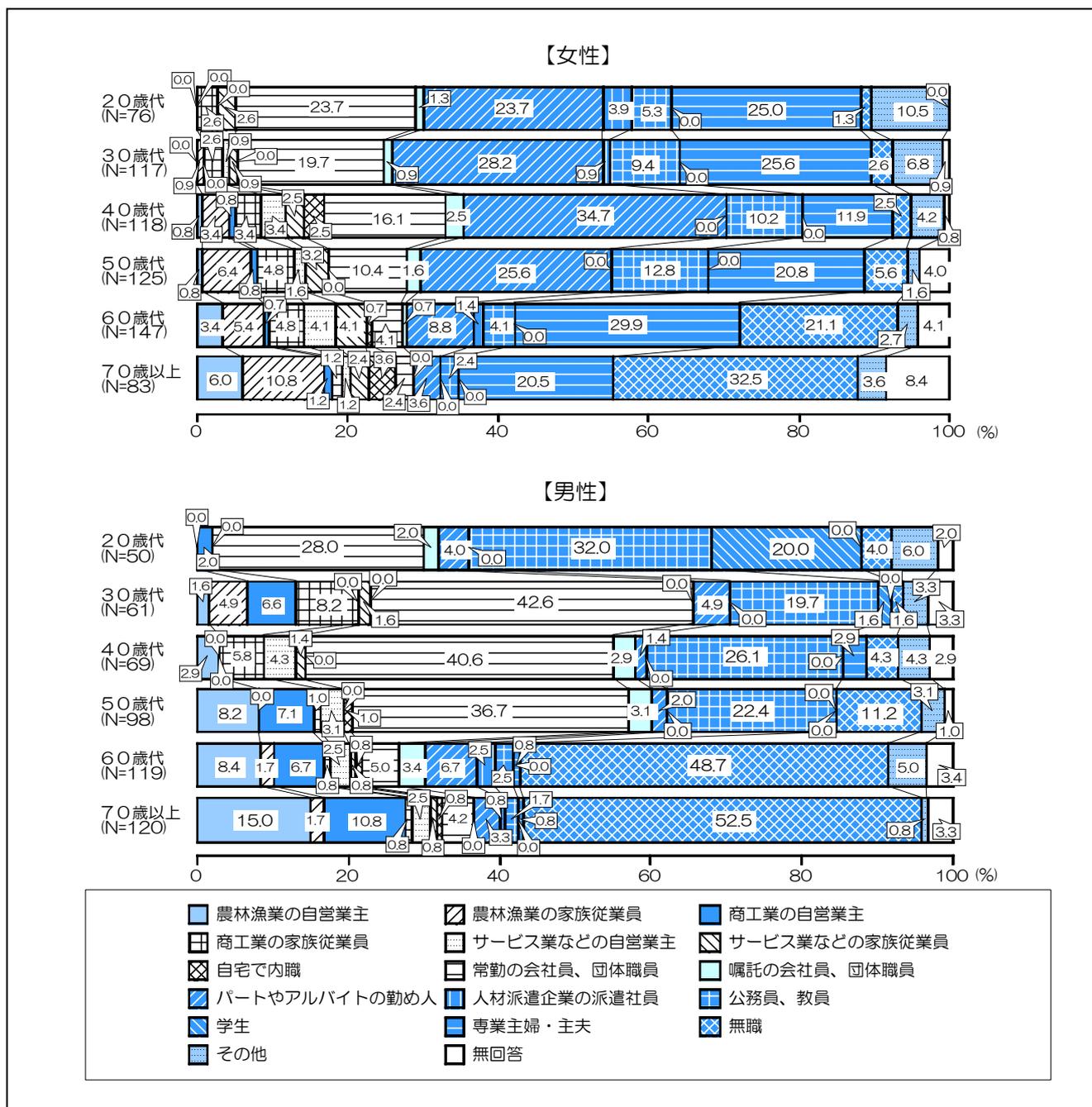
《ポイント》

- 女性は「専業主婦・主夫」、「パートやアルバイトの勤め人」が多く、それぞれ2割を占めている。
- 男性は「常勤の会社員、団体職員」、「公務員、教員」が多くなっている。

職業について、全体では、「常勤の会社員、団体職員」が16.5%と最も高く、次いで、「パートやアルバイトの勤め人」が13.6%、「専業主婦・主夫」が12.8%、「公務員、教員」が10.3%となっている。

性別にみると、「常勤の会社員、団体職員」は男性で22.2%、女性で12.1%と男性の方が10.1ポイント高くなっている。逆に、「パートやアルバイトの勤め人」は女性の方が17.2ポイント高くなっている。女性は、「専業主婦・主夫」が最も高く22.5%、次いで、「パートやアルバイトの勤め人」が21.1%となっている。男性は、「常勤の会社員、団体職員」が22.2%と最も高く、次いで、「公務員、教員」が14.1%、「農林漁業の自営業主」が7.5%となっている。(図5-2)

図5-2-1 性年齢別 職業



《ポイント》

- 女性では、「常勤の会社員、団体職員」が若年層で多い。40歳代では「パートやアルバイトの勤め人」が多く、「専業主婦・主夫」は少なくなっている。
- 男性は、「常勤の会社員、団体職員」が50歳代までの年代で多くなっている。

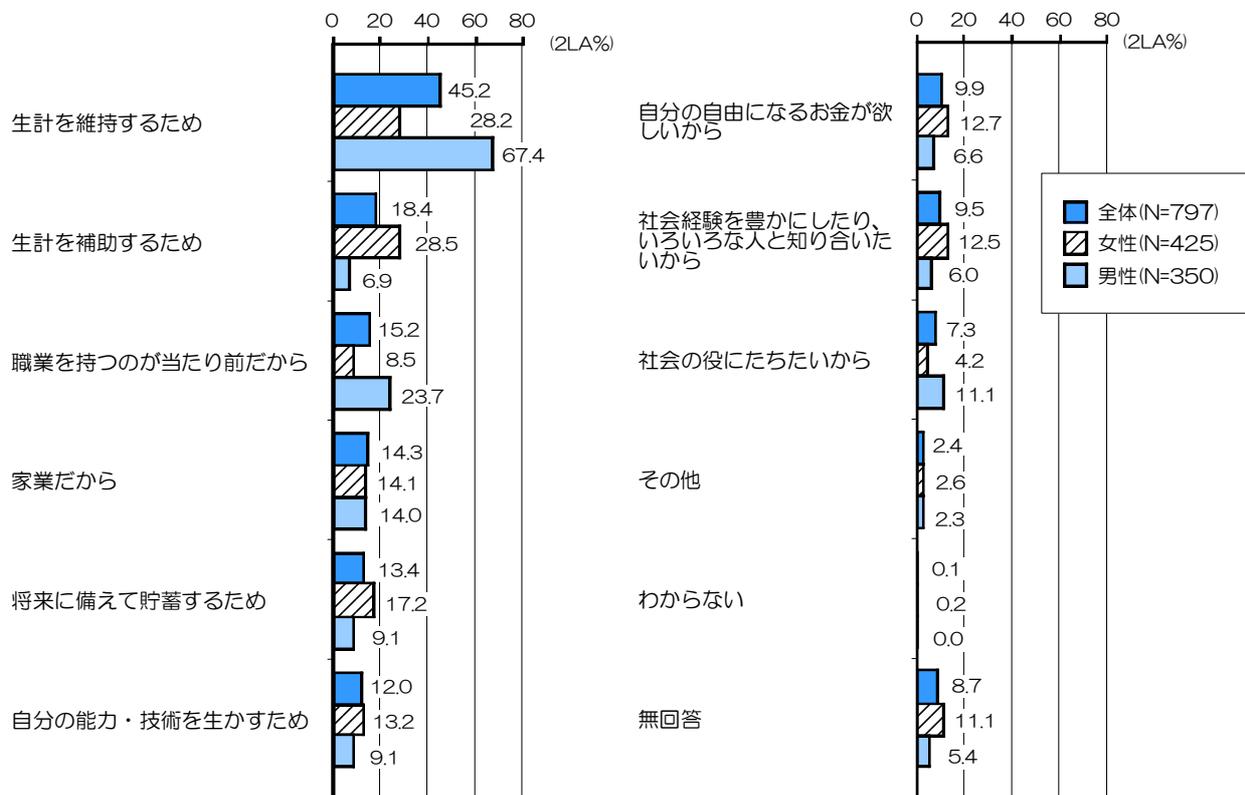
性年齢別にみると、女性では「常勤の会社員、団体職員」は20歳代の23.7%を中心に若年層で高く、年代が上がるほど低くなっている。「パートやアルバイトの勤め人」は40歳代で34.7%と最も高くなっている。「専業主婦・主夫」は40歳代で11.9%と最も低くなっており、年代が上がるほど高くなっている。男性では、「常勤の会社員、団体職員」は30歳代で42.6%と最も高く、50歳代までの年代で3割以上、「農林漁業の自営業主」は年代が上がるほど割合は高くなり、70歳以上では15.0%となっている。20歳代では「公務員、教員」が32.0%と最も高く、「常勤の会社員、団体職員」を上回っている。(図5-2-1)

5-3 働いている理由

【現在、仕事（収入を得る仕事）を持っている方にお聞きします】

問20 あなたが働いているのは、どのような理由からですか。（2つまでに○印）

図5-3 働いている理由



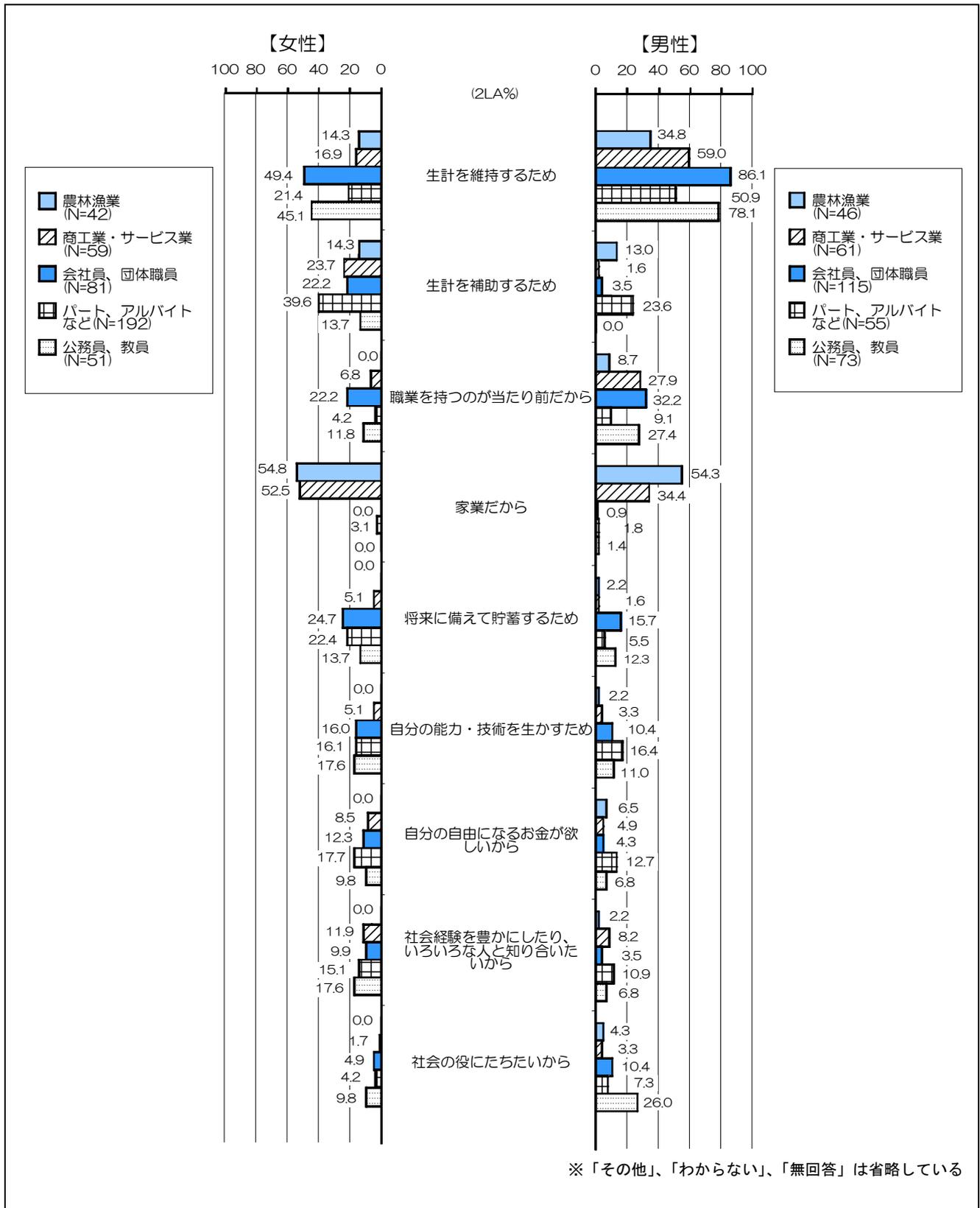
《ポイント》

○男性は、「生計を維持するため」が6割以上、女性は「生計を補助するため」が約3割と最も高くなっている。

働いている理由について、全体では、「生計を維持するため」が45.2%で最も高く、次いで、「生計を補助するため」が18.4%、「職業を持つのが当たり前だから」が15.2%となっている。

性別にみると、「生計を維持するため」は男性で67.4%と高く、39.2ポイントの男女差、「職業を持つのが当たり前だから」でも男性の方が15.2ポイント高くなっている。女性は「生計を補助するため」で28.5%と最も高く、男性よりも21.6ポイント高くなっている。(図5-3)

図5-3-1 職業別 働いている理由

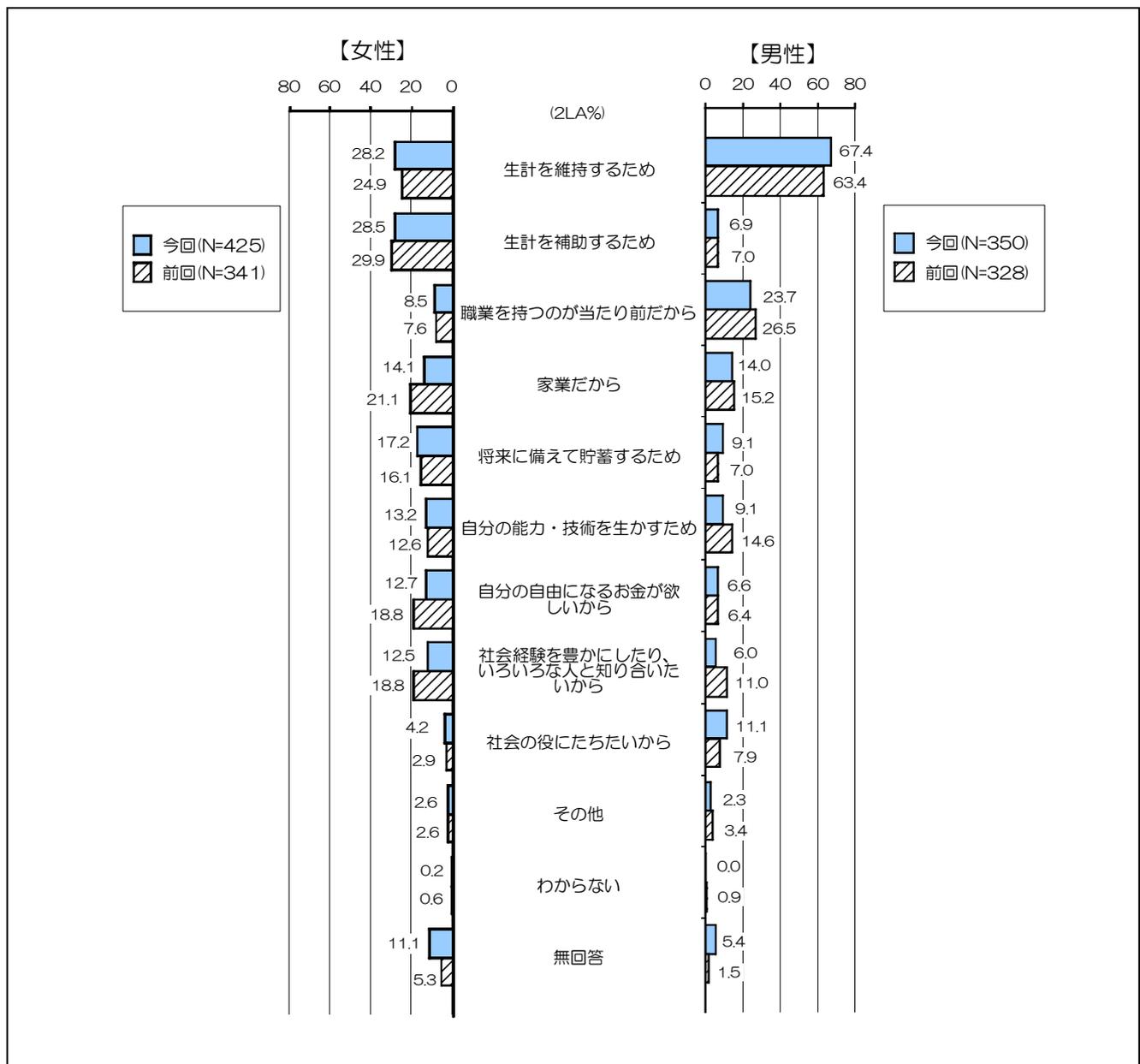


《ポイント》

- 「会社員、団体職員」は、「生計を維持するため」が男性で8割以上、女性で約半数となっている。
- 「農林漁業」は、「家業だから」が男女とも5割以上、「パート、アルバイトなど」は、女性では「生計を補助するため」が理由として最も多い。

職業別にみると、「農林漁業」は男女とも「家業だから」が半数を超え、割合が最も高い。「商工業・サービス業」は、女性では「家業だから」が半数を超えているが、男性では「生計を維持するため」が最も高い。「会社員、団体職員」は、男性では「生計を維持するため」が86.1%と高く、女性でも49.4%と他の理由と比べ、最も高い。「パート、アルバイト」は男性では「生計を維持するため」が50.9%、「生計を補助するため」が23.6%となっている。女性では「生計を補助するため」が39.6%と最も高くなっている。「公務員、教員」は男女とも「生計を維持するため」が最も高い。男性では「職業を持つのが当たり前だから」(27.4%)、「社会の役にたちたいから」(26.0%)も高くなっている。(図5-3-1)

図5-3-2 前回調査比較 働いている理由



《ポイント》

- 男女とも「生計を維持するため」が増加している。
- 女性は、「家業だから」、「自分の自由になるお金が欲しいから」、「社会経験を豊かにしたり、いろいろな人と知り合いたいから」などで減少し、「社会の役にたちたいから」、「自分の能力・技術を生かすため」などで増加している。

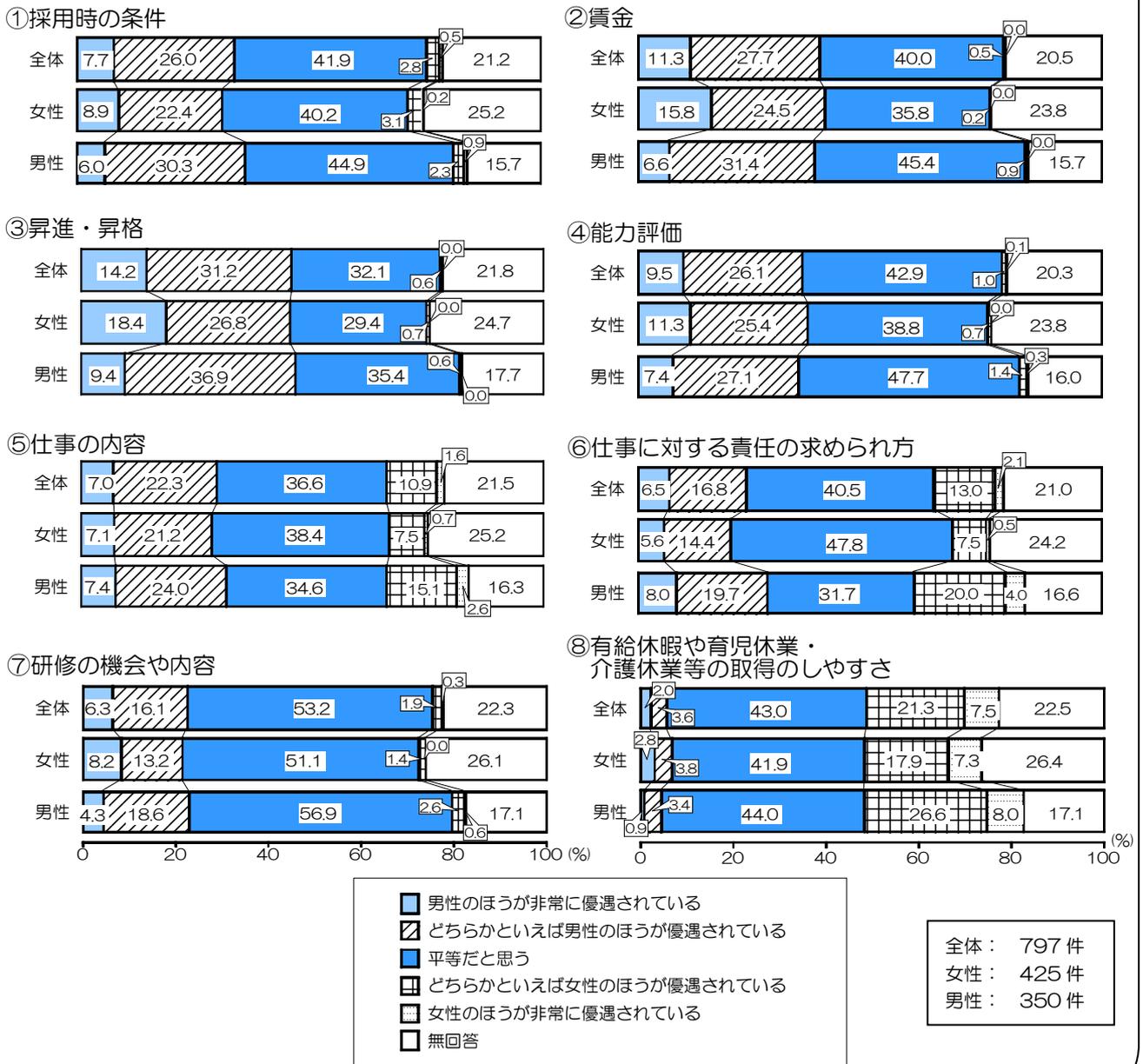
前回調査と比較すると、女性では、「家業だから」で7.0ポイント、「自分の自由になるお金が欲しいから」で6.1ポイント、「社会経験を豊かにしたり、いろいろな人と知り合いたいから」で6.3ポイント前回調査から減少している。男性では、「生計を維持するため」で4.0ポイント、「社会の役に立ちたいから」で3.2ポイント増加している。一方、「職業を持つのが当たり前だから」で2.8ポイント、「自分の能力・技術を生かすため」で5.5ポイント、「社会経験を豊かにしたり、いろいろな人と知り合いたいから」で5.0ポイント減少している。全体的に前回調査と比べて大きな差は見られない。(図5-3-2)

5-4 働く場での男女の平等観

【現在、仕事（収入を得る仕事）を持っている方にお聞きします】

問21 あなたの働く場では、女性と男性は平等だと思いますか。（①～⑧の項目それぞれについて、1つだけに○印）

図5-4 働く場での男女の平等観



《ポイント》

- 男女とも「昇進・昇格」の面で『男性が優遇されている』と感じている。
- 「仕事に対する責任の求められ方」や「仕事の内容」では、女性の方が平等と感じている割合が高いが、それ以外の項目では男性の方が平等と感じている割合が高い。

- 女性の「会社員、団体職員」、「パート、アルバイト」では、ほとんどの項目で『男性優遇』と感じている人が多く、逆に、女性の「公務員、教員」では平等と感じている人が比較的多い。

(図5-4-1)

働く場での男女の平等観について、「①採用時の条件」では、全体では「平等である」が41.9%と最も高く、『男性優遇』（「男性のほう非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうに優遇されている」を合わせたもの）の33.7%を上回っている。性別にみると、「平等である」、『男性優遇』ともに男性の方が若干高くなっている。

「②賃金」では、全体では「平等である」が40.0%と最も高く、『男性優遇』の39.0%を上回っている。性別にみると、「平等である」は約10ポイント男性の方が高いが、「男性のほう非常に優遇されている」は女性の方が9.2ポイント高くなっている。

「③昇進・昇格」では、全体では『男性優遇』が45.4%と「平等である」(32.1%)を上回っている。性別にみると、「平等である」は男性の方が6.0ポイント高い。『男性優遇』は男性の方が若干高いが、「男性のほう非常に優遇されている」は女性の方が9.0ポイント高くなっている。

「④能力評価」では、全体では「平等である」が42.9%と最も高く、『男性優遇』の35.6%を上回っている。性別にみると、「平等である」は男性の方が8.9ポイント上回っているが、『男性優遇』は女性の方が2.2ポイント高くなっている。

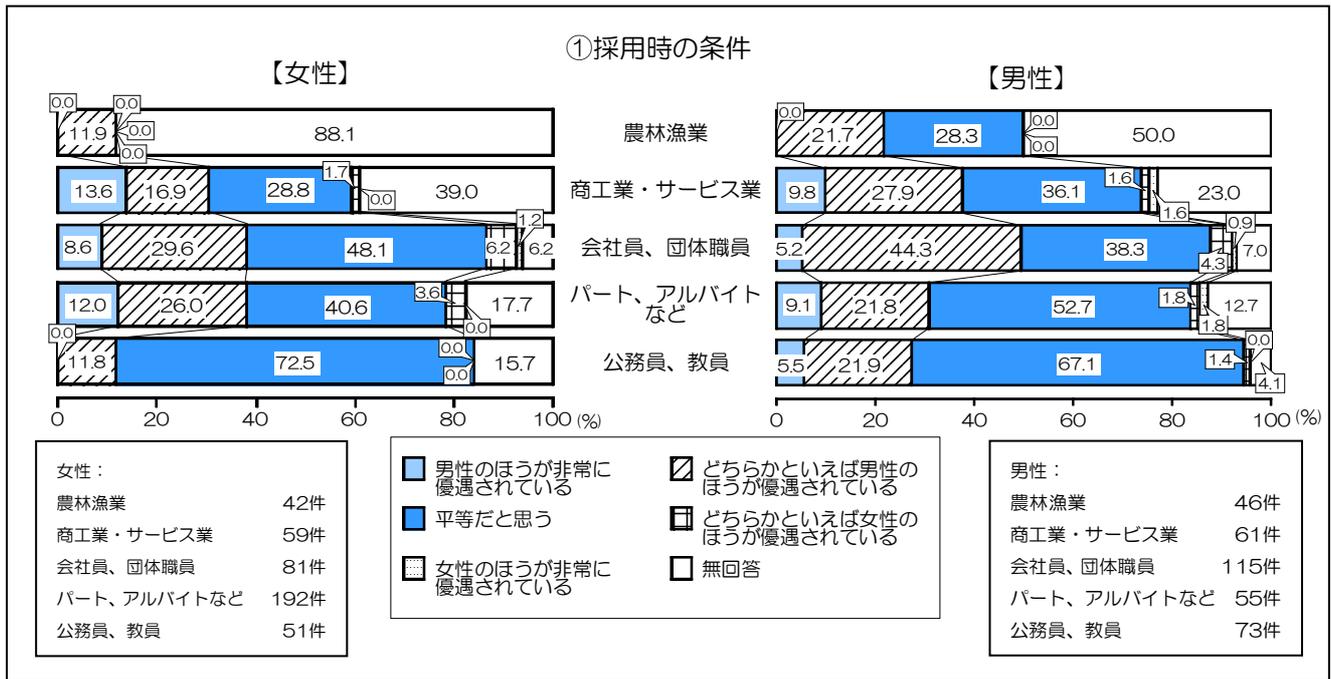
「⑤仕事の内容」では、全体では「平等である」が36.6%と最も高く、『男性優遇』の29.3%を上回っている。また、『女性優遇』（「女性のほう非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性のほうに優遇されている」を合わせたもの）も12.5%と1割以上となっている。性別にみると、「平等である」は女性の方が若干高くなっているが、『男性優遇』、『女性優遇』ともに男性の方が高くなっている。

「⑥仕事に対する責任の求められ方」では、全体では「平等である」が40.5%と最も高く、『男性優遇』(23.3%)、『女性優遇』(15.1%)を上回っている。性別にみると、「平等である」は女性で47.8%と高く、男性との差は16.1ポイントとなっている。『女性優遇』は男性で高く24.0%と女性との差は16.0ポイントとなっている。

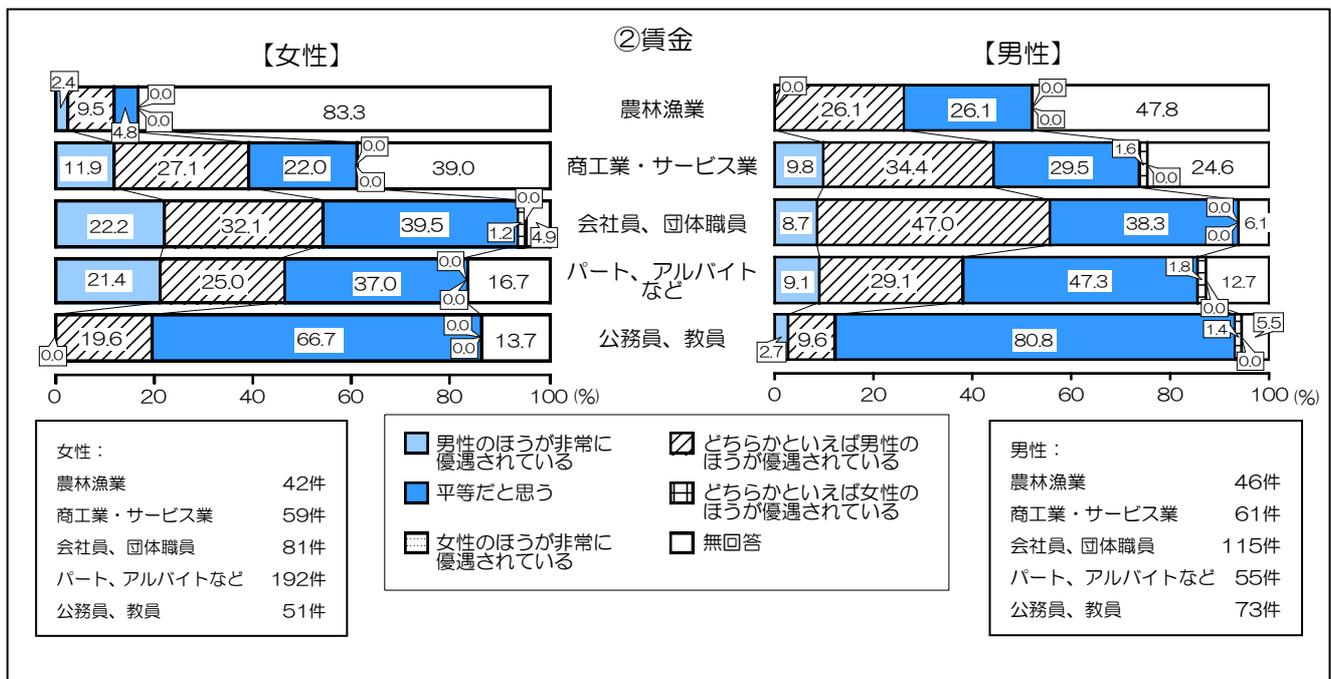
「⑦研修の機会や内容」では、全体では「平等である」が53.2%で半数以上と最も高く、『男性優遇』は22.4%にとどまっている。性別にみると、「平等である」は男性の方が5.8ポイント高くなっているが、「男性のほう非常に優遇されている」は女性の方が3.9ポイント高くなっている。

「⑧有給休暇や育児休業・介護休業等の取得のしやすさ」では、全体では「平等である」が43.0%と最も高くなっている。また、『男性優遇』は5.6%にとどまり、『女性優遇』が28.8%と大きく上回っている。性別にみると、「平等である」、『女性優遇』ともに男性の方が高く、特に、『女性優遇』では9.4ポイントの男女差となっている。(図5-4)

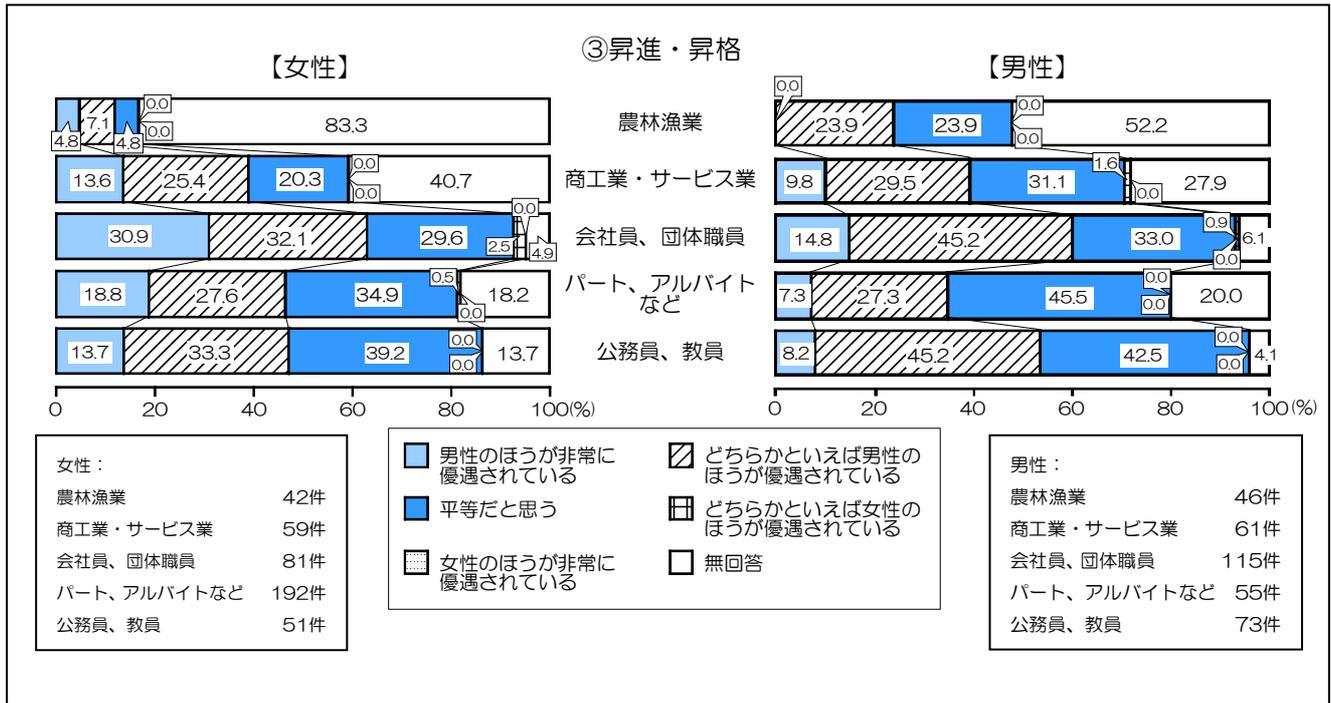
図5-4-1 職業別 働く場での男女の平等観



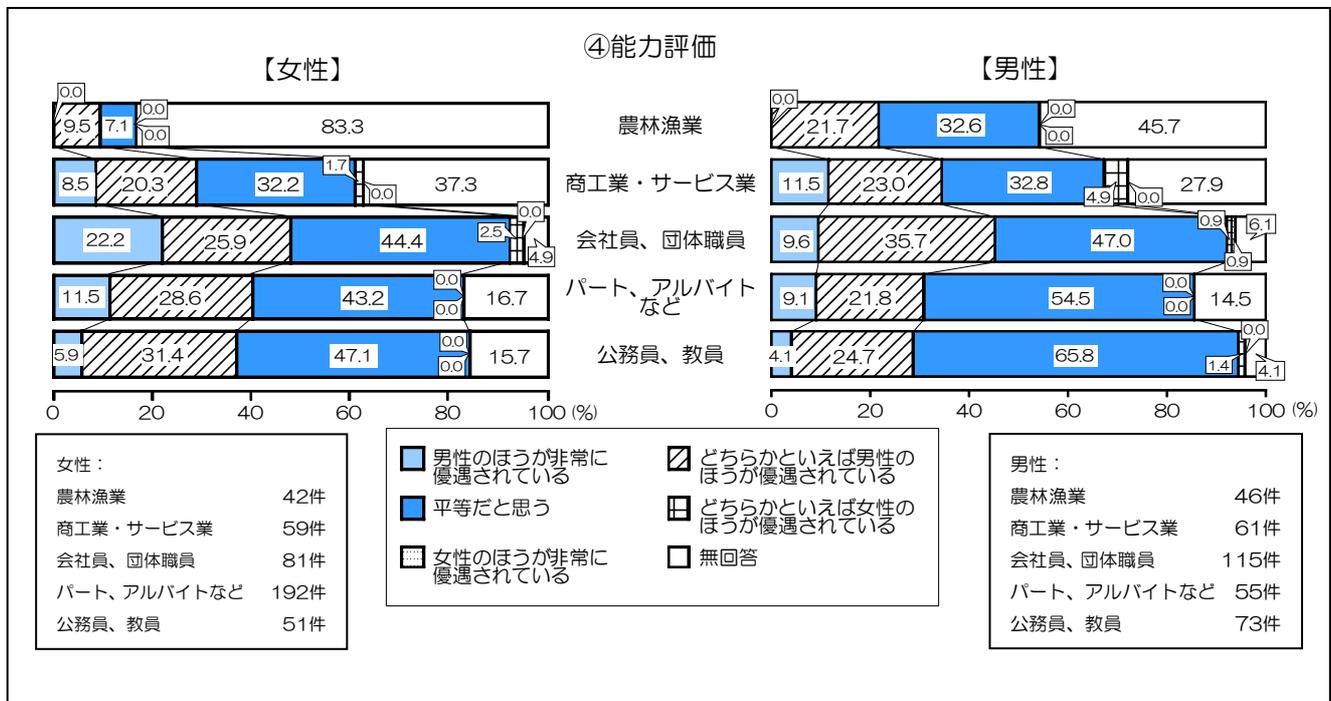
「①採用時の条件」について、職業別にみると、『男性優遇』は女性では「会社員、団体職員」で38.2%、「パート、アルバイトなど」で38.0%と高くなっている。男性では、『男性優遇』は「会社員、団体職員」で49.5%と最も高い。「平等だと思う」は男女とも「公務員、教員」で高く、女性は72.5%、男性は67.1%となっている。また、女性では「会社員、団体職員」で男性よりも9.8ポイント「平等だと思う」が高いのに対し、「パート、アルバイトなど」では男性の方が12.1ポイント高い。



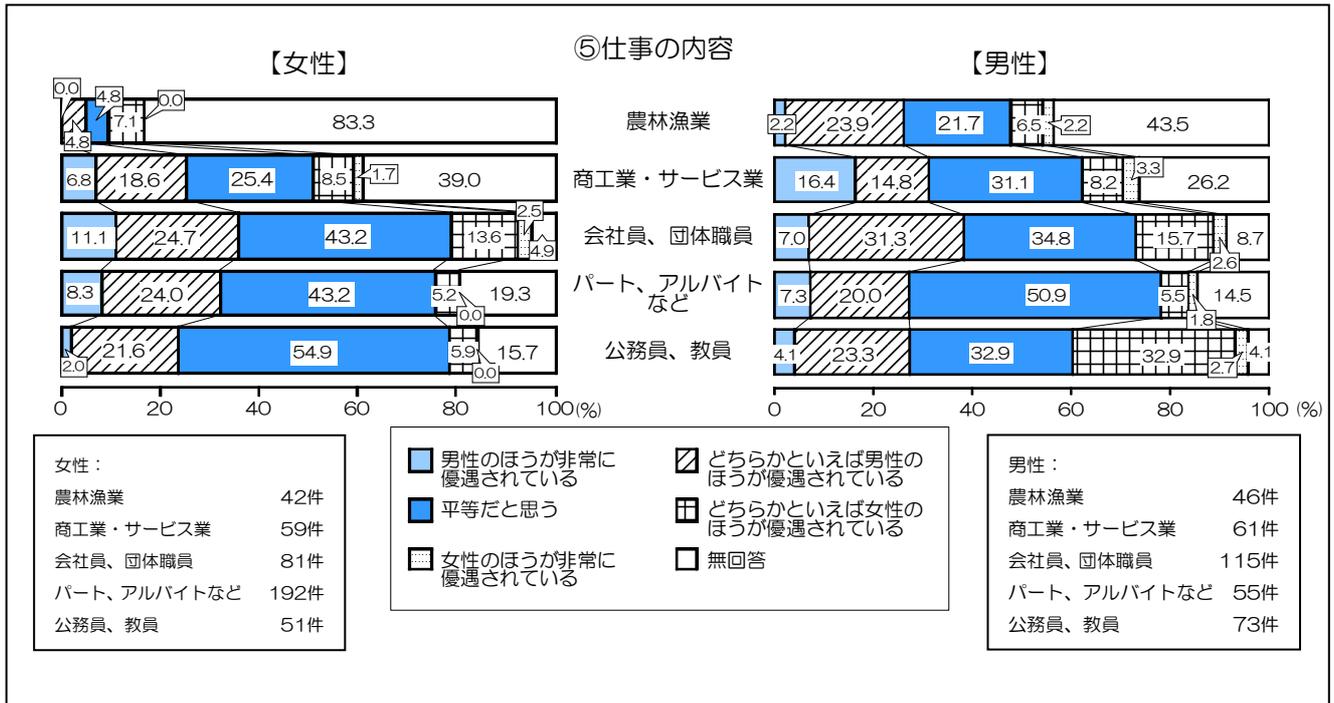
「②賃金」について、職業別にみると、『男性優遇』は女性では「会社員、団体職員」で最も高く54.3%、次いで、「パート、アルバイトなど」が46.4%となっている。男性では、「会社員、団体職員」で55.7%と最も高く、「商工業・サービス業」で44.2%となっている。「平等だと思う」は男女とも「公務員、教員」で高く、女性は66.7%、男性は80.8%となっている。



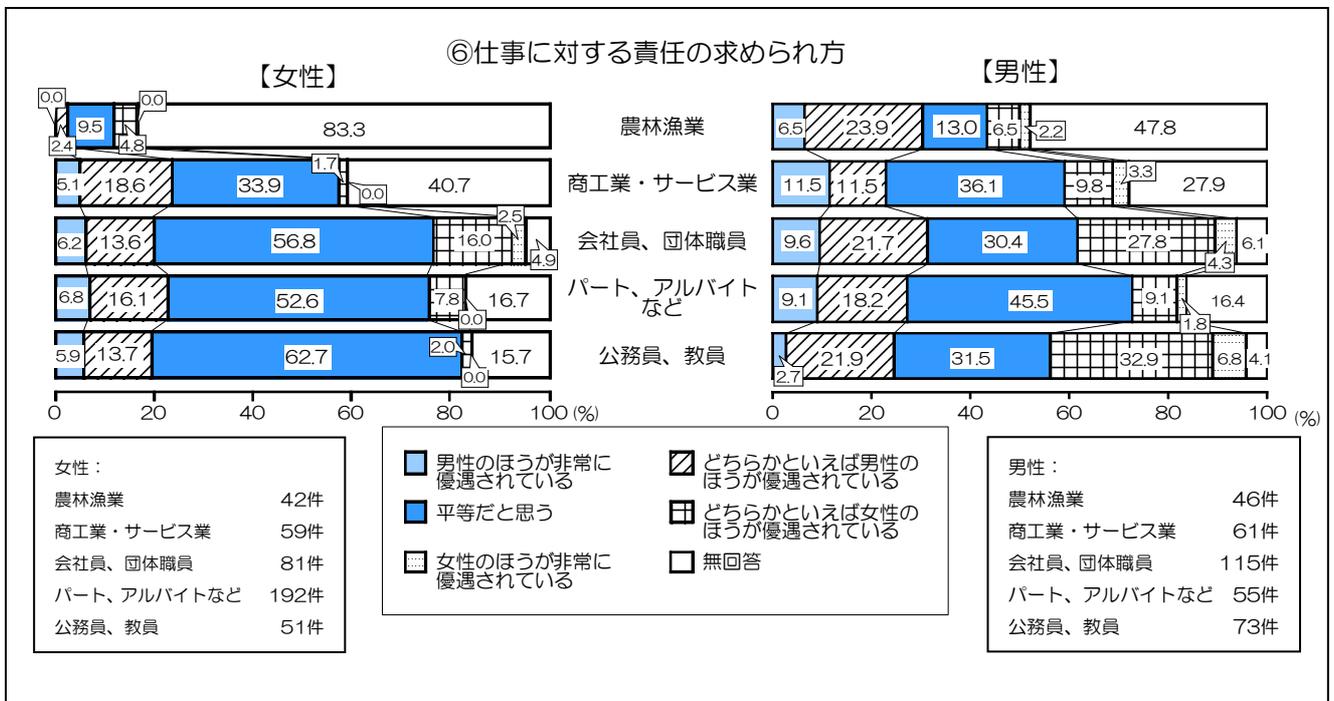
「③昇進・昇格」について、職業別にみると、『男性優遇』は男女とも「会社員、団体職員」で最も高く女性は63.0%、男性は60.0%となっている。「パート、アルバイトなど」では、女性は『男性優遇』が46.4%と高いのに対し、男性では、『男性優遇』は34.6%にとどまり、「平等だと思う」は45.5%と約半数となっている。「公務員、教員」でも男女とも「平等だと思う」は半数以下となっている。



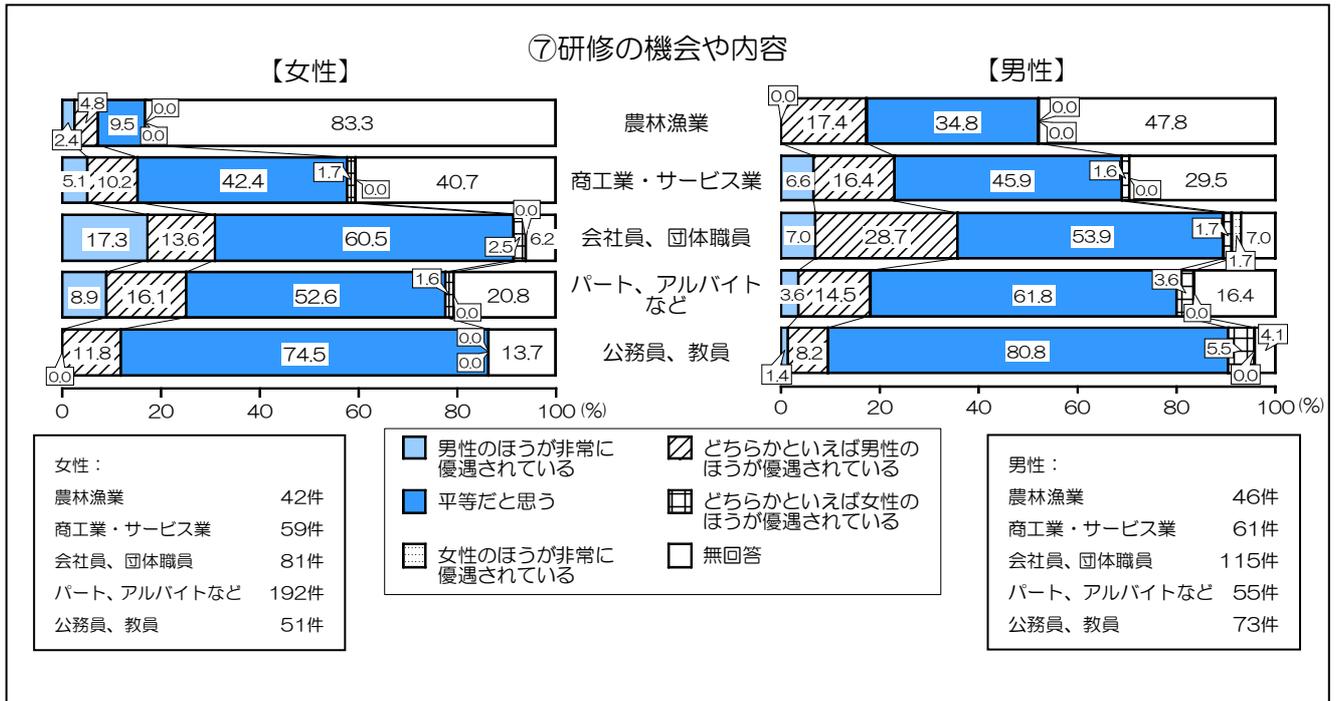
「④能力評価」について、職業別にみると、『男性優遇』は女性では、「会社員、団体職員」で最も高く48.1%、「パート、アルバイトなど」でも40.1%となっている。男性では「会社員、団体職員」で最も高く45.3%となっている。「平等だと思う」は男性で高く、「公務員、教員」で65.8%、「パート、アルバイトなど」で54.5%と半数を超えている。



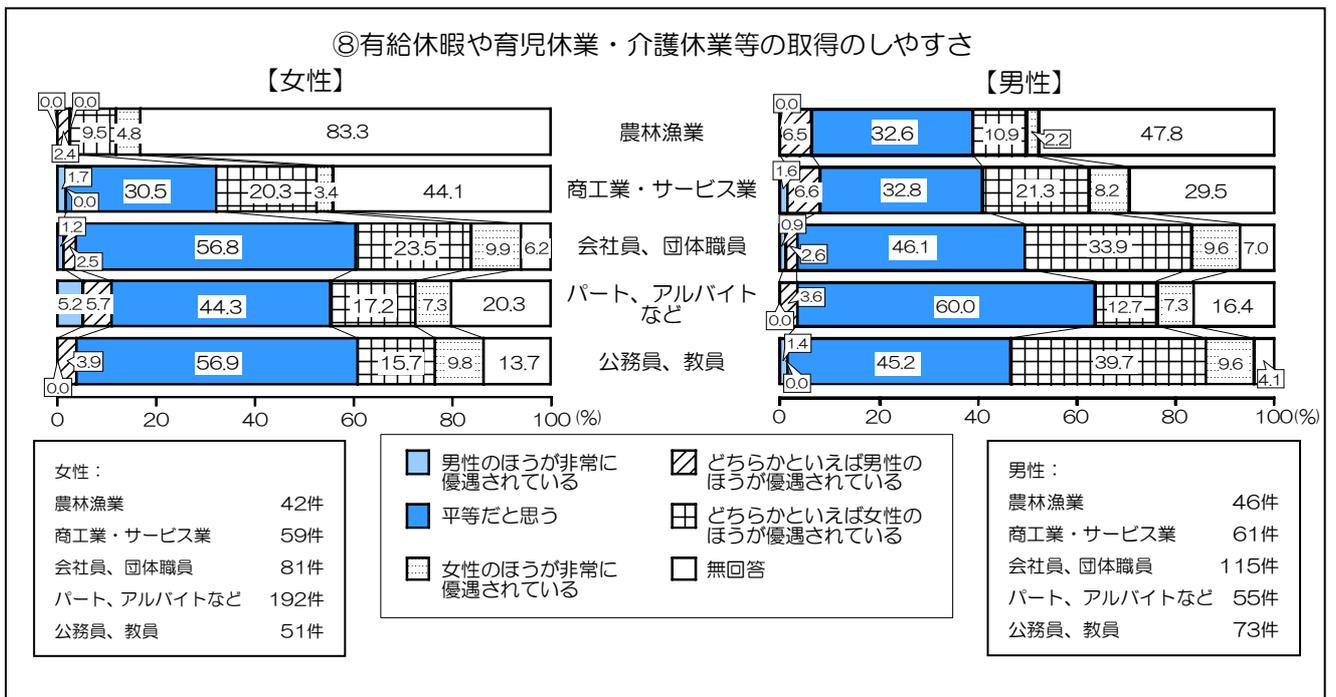
「⑤仕事の内容」について、職業別にみると、『男性優遇』は女性では、「会社員、団体職員」で最も高く35.8%、「パート、アルバイトなど」でも32.3%となっている。男性では「会社員、団体職員」で最も高く38.3%となっている。「平等だと思う」は「パート、アルバイトなど」の男性で高く50.9%となっている。「公務員、教員」では女性は「平等だと思う」が54.9%と半数以上であるのに対し、男性では32.9%にとどまり、『女性優遇』が35.6%と高く(女性：5.9%)、大きな男女差が見られる。



「⑥仕事に対する責任の求められ方」について、職業別にみると、「平等だと思う」は女性で高く、「公務員、教員」で62.7%、「会社員、団体職員」で56.8%、「パート、アルバイトなど」で52.6%と半数を超えている。男性では、「パート、アルバイトなど」で45.5%と最も高い。『女性優遇』は男性で高く、「公務員、教員」で39.7%、「会社員、団体職員」で32.1%となっている。「会社員、団体職員」は、女性でも『女性優遇』が18.5%と、他の職種に比べ高くなっている。



「⑦研修の機会や内容」について、職業別にみると、「平等だと思う」は男女とも「公務員、教員」で高く、女性が74.5%、男性が80.8%と男性の方が高くなっている。「会社員、団体職員」、「パート、アルバイトなど」でも男女とも「平等だと思う」は半数を超えている。『男性優遇』は男女とも「会社員、団体職員」で最も高く、女性は30.9%、男性は35.7%とほぼ同程度となっている。



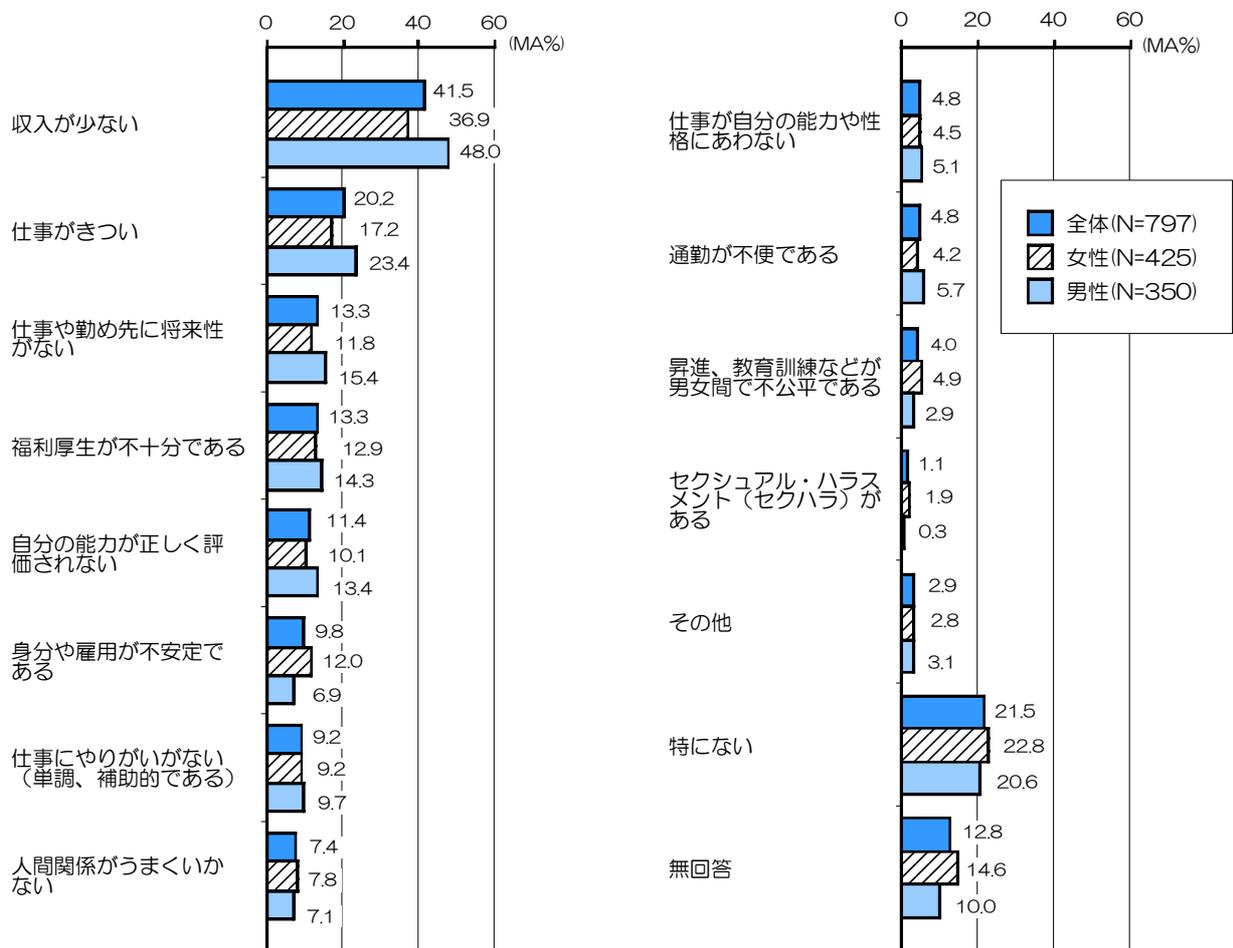
「⑧有給休暇や育児休業・介護休業等の取得のしやすさ」について、女性では、「平等だと思う」は「公務員、教員」で56.9%、「会社員、団体職員」で56.8%と半数以上となっている。『女性優遇』は「会社員、団体職員」で33.4%と最も高い。男性では「平等だと思う」は「パート、アルバイトなど」で60.0%と最も高いが、『女性優遇』は20.0%にとどまっている。これに対し、「公務員、教員」、「会社員、団体職員」では『女性優遇』が高く、4割以上となっている。

5-5 現在の職場で不満に思っていること

【現在、仕事（収入を得る仕事）を持っている方にお聞きします】

問22 あなたは、現在の仕事で不満に思っていることがありますか。（あてはまるもの全てに○印）

図5-5 現在の職場で不満に思っていること



《ポイント》

- 男女とも「収入が少ない」が最も多く、職場で不満に思っていることが「特にな」という人は約2割である。
- 「収入が少ない」など多くの項目で、男性の方が割合は高いが、「身分や雇用が不安定である」では、女性の方が割合が高い。

現在の職場で不満に思っていることについて、全体では、「収入が少ない」が41.5%で最も高く、次いで、「仕事がつい」が20.2%、「仕事や勤め先に将来性がない」、「福利厚生が不十分である」が13.3%となっている。

性別にみると、多くの項目で男性の方が高く、「収入が少ない」では11.1ポイント、「仕事がつい」では6.2ポイント、「仕事や勤め先に将来性がない」では3.6ポイントの男女差となっている。「身分や雇用が不安定である」では女性の方が高く、5.1ポイントの男女差となっている。（図5-5）

表5-5-1 職業別 現在の仕事場で不満に思っていること

	全体	収入が少ない	仕事がつらい	ない仕事や勤め先に将来性が	福利厚生が不十分である	自分の能力が正しく評価	身分や雇用が不安定である	仕事に補助的でない(単調)	人間関係がうまくいかな	に仕事がない自分の能力や性格	通勤が不便である	昇進、教育訓練などがあるが男	ンセクシ(セクハラ・ハラある)	その他	特にな	(MA%) 無回答
女性																
農林漁業	42	429	28.6	4.8	0.0	2.4	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5	45.2
商工業・サービス業	59	27.1	8.5	13.6	6.8	5.1	3.4	6.8	1.7	8.5	1.7	0.0	0.0	1.7	35.6	20.3
会社員、団体職員	81	38.3	21.0	16.0	18.5	14.8	9.9	14.8	12.3	6.2	7.4	8.6	3.7	4.9	21.0	6.2
パート、アルバイトなど	192	43.8	14.1	12.5	18.2	13.0	19.8	8.9	8.9	3.1	4.2	4.7	2.1	2.6	21.4	9.4
公務員、教員	51	15.7	23.5	5.9	2.0	3.9	5.9	9.8	9.8	5.9	5.9	9.8	2.0	3.9	27.5	15.7
男性																
農林漁業	46	54.3	30.4	8.7	6.5	4.3	2.2	4.3	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	2.2	10.9	26.1
商工業・サービス業	61	37.7	13.1	18.0	9.8	8.2	4.9	8.2	3.3	4.9	3.3	1.6	0.0	4.9	24.6	24.6
会社員、団体職員	115	52.2	31.3	20.9	22.6	24.3	7.8	10.4	11.3	7.0	10.4	5.2	0.0	3.5	22.6	0.0
パート、アルバイトなど	55	50.9	21.8	12.7	20.0	10.9	16.4	10.9	7.3	1.8	5.5	0.0	1.8	3.6	16.4	9.1
公務員、教員	73	43.8	16.4	11.0	5.5	8.2	2.7	12.3	8.2	6.8	4.1	4.1	0.0	1.4	23.3	4.1

《ポイント》

- 男性は全ての職業で「収入が少ない」の割合が高く、特に「農林漁業」、「会社員、団体職員」、「パート、アルバイトなど」で高い。
- 女性は「会社員、団体職員」、「パート、アルバイトなど」で、「収入が少ない」が最も高いが、「商工業・サービス業」、「公務員、教員」では、現在の仕事場で不満に思っていることは「特にな」が最も高い。

職業別にみると、女性では、「会社員、団体職員」、「パート、アルバイトなど」で、「収入が少ない」が高く、「農林漁業」でも4割以上となっている。不満に思っていることが「特にな」という人は「商工業・サービス業」(35.6%)、「公務員、教員」(27.5%)で他の職業より高くなっている。男性では、全ての職業で「収入が少ない」が最も高く、特に、「農林漁業」、「会社員、団体職員」、「パート、アルバイトなど」では半数以上となっている。「仕事がつらい」は、「農林漁業」(30.4%)と「会社員、団体職員」(31.3%)で高くなっている。「自分の能力が正しく評価されない」は「会社員、団体職員」で24.3%と、他の職業に比べ、高くなっている。(表5-5-1)

5-6 就労意向の有無・希望する就労形態・就労の際に気がかりなこと

【現在、仕事（収入を得る仕事）を持っていない方にお聞きします】

問23 あなたは今後、適当な仕事があれば働きたいと思いますか。（1つだけに○印）

問23-1 働くとするば、どのような形で働きたいと思いますか。（1つだけに○印）

問23-2 働きたいと思ったとき、気がかりなことは何ですか。（3つまでに○印）

図5-6 就労意向の有無

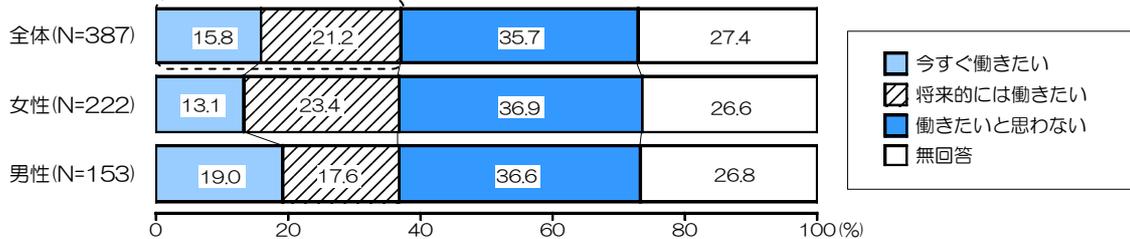


図5-6① 希望する就労形態

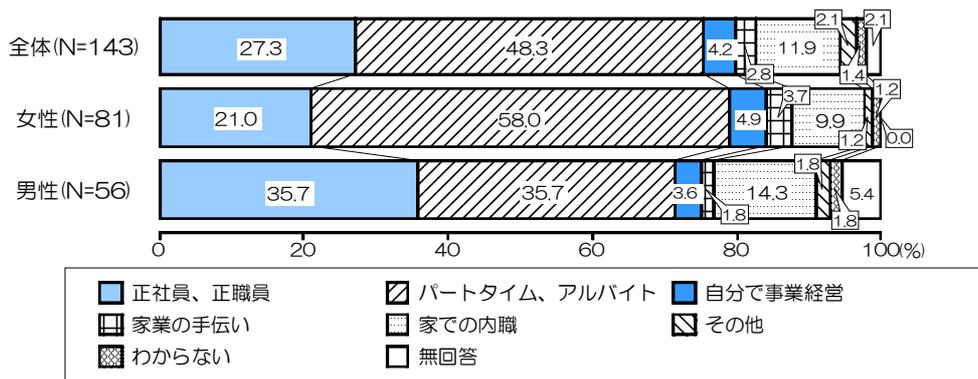
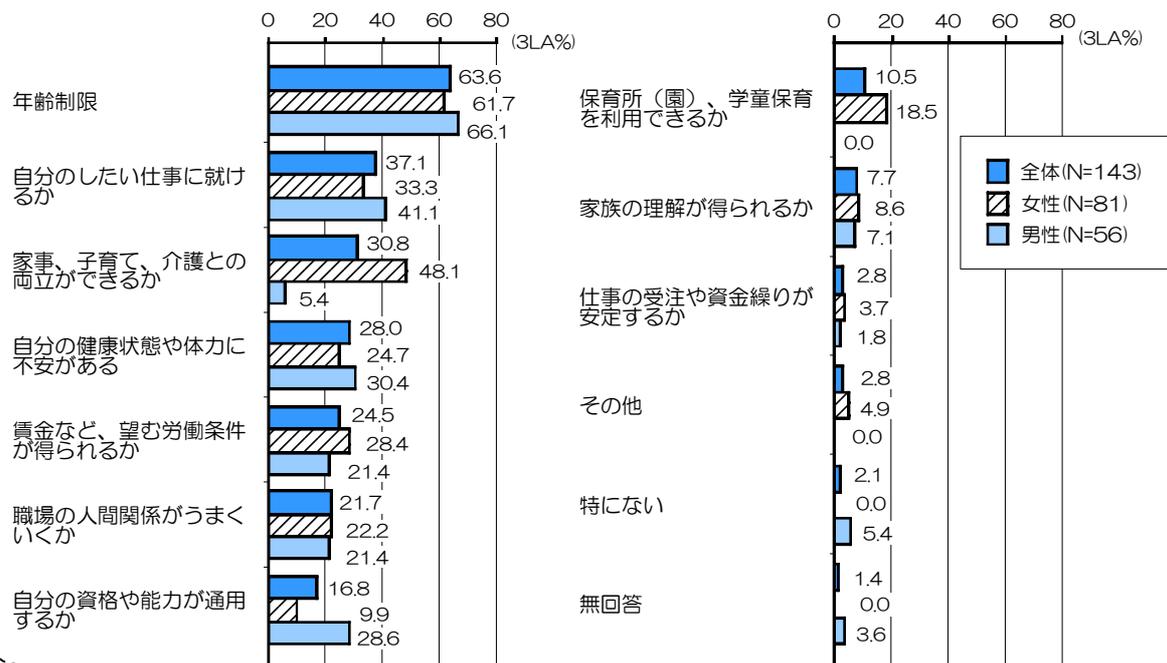


図5-6② 就労の際に気がかりなこと



《ポイント》

- 男女とも就労意向の割合は36%程だが、「今すぐ働きたい」という人の割合は男性の方が高い。
- 希望する就労形態は女性が「パートタイム、アルバイト」で58.0%、男性は「正社員、正職員」、「パートタイム、アルバイト」がともに35.7%となっている。
- 就労の際に気がかりなことは、男女ともに「年齢制限」が最も高く、他にも「家事、子育て、介護との両立」では女性が、「資格や能力が通用するか」では男性が高くなっている。

就労意向の有無について、全体では「今すぐ働きたい」が15.8%、「将来的には働きたい」が21.2%で、就労意向があるという人は37.0%に上っており、「働きたいと思わない」という人の35.7%を若干上回っている。

性別にみると、就労意向のある人は男女で差はないが「今すぐ働きたい」という人の割合は男性の方が5.9ポイント高くなっている。(図5-6)

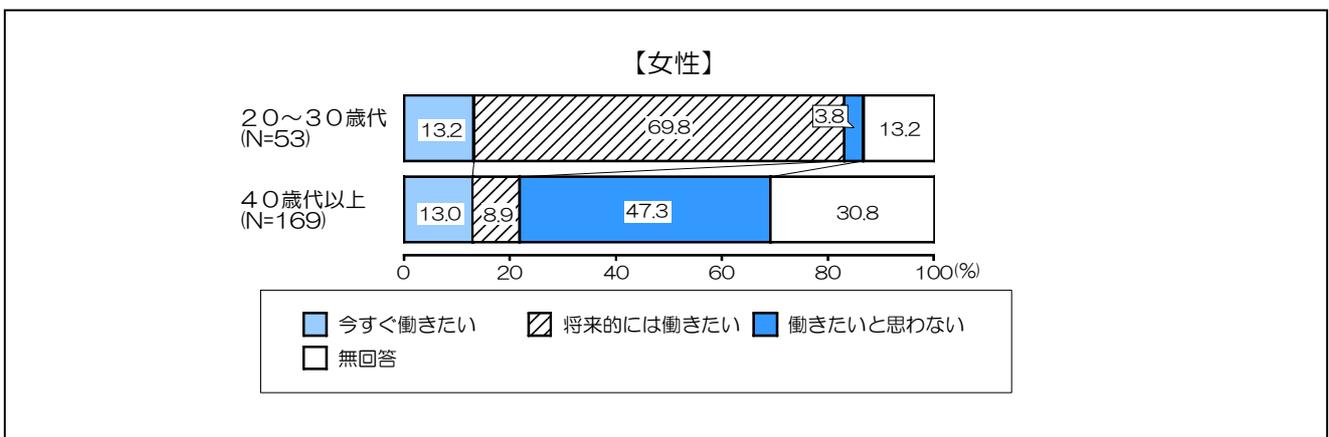
希望する就労形態について、全体では「パートタイム、アルバイト」が48.3%と最も高く、次いで、「正社員、正職員」が27.3%、「家での内職」が11.9%となっている。

性別にみると、「パートタイム、アルバイト」は女性の方が22.3ポイント高く、「正社員、正職員」は男性の方が14.7ポイント高くなっている。(図5-6①)

就労の際に気がかりなことについて、全体では「年齢制限」が63.6%と最も高く、次いで、「自分のしたい仕事に就けるか」が37.1%、「家事、子育て、介護との両立ができるか」が30.8%となっている。

性別にみると、男女差の大きいものとして、「家事、子育て、介護との両立ができるか」で42.7ポイント、「保育所(園)、学童保育を利用できるか」で18.5ポイント女性が高く、「自分の資格や能力が通用するか」で18.7ポイント男性が高くなっている。(図5-6②)

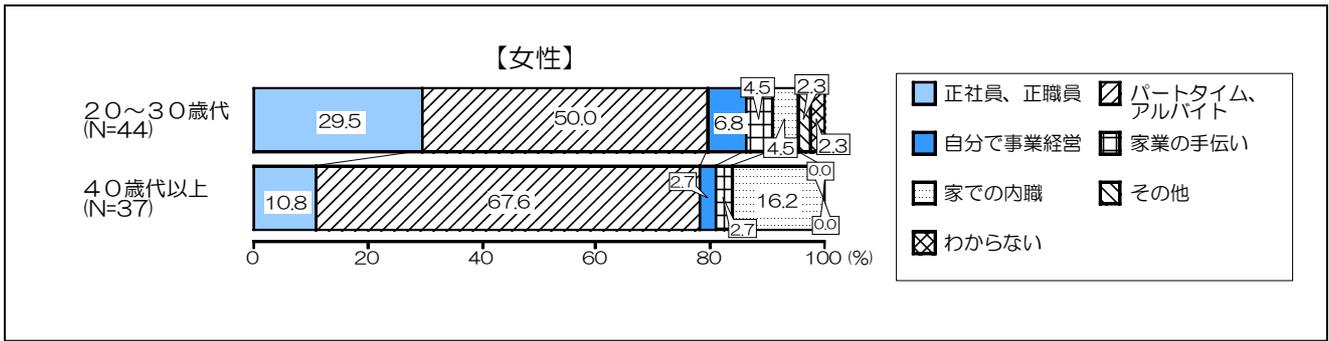
図5-6-1 性年齢別 就労の意向の有無(女性のみ)



- 「将来的には働きたい」という女性は、20~30歳代で約7割となっている。
- 40歳代以上では、「働きたいと思わない」が半数近くとなっている。

就労意向の有無について、女性のみ、性年齢別にみると、20~30歳代で「将来的には働きたい」が69.8%と高いのに対し、40歳代以上では8.9%と低くなっている。40歳代以上では「働きたいと思わない」が47.3%とほぼ半数を占めている。「今すぐ働きたい」は、20~30歳代、40歳代以上ともに13%ほどと、差は見られない。(図5-6-1)

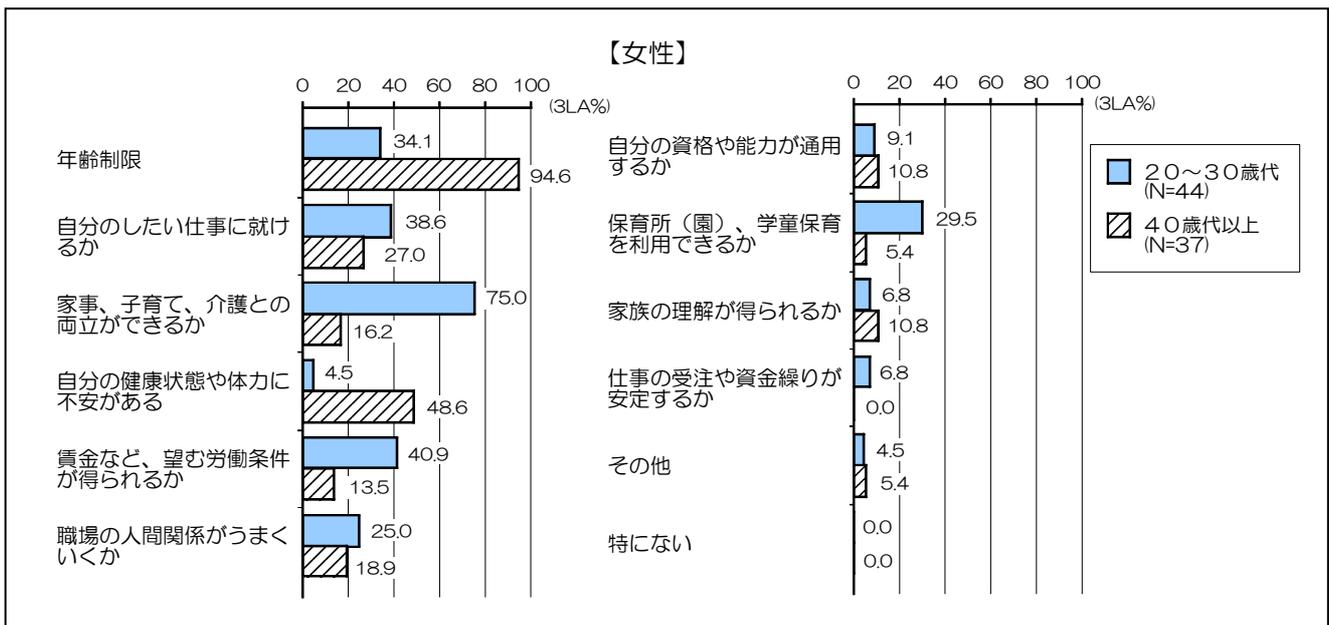
図5-6①-1 性年齢別 希望する就労形態（女性のみ）



○「パートタイム、アルバイト」は20～30歳代で半数、40歳代以上で6割以上となっている。

希望する就労形態について、女性のみ、性年齢別にみると、20～30歳代では「正社員、正職員」が29.5%で、40歳代以上（10.8%）と比べ、18.7ポイント高くなっている。40歳代以上では「パートタイム、アルバイト」が67.6%と、20～30歳代（50.0%）に比べ高くなっている。（図5-6①-1）

図5-6②-1 性年齢別 就労の際に気がかりなこと（女性のみ）



《ポイント》

○20～30歳代の4分の3が、「家事、子育て、介護との両立」に不安を感じている。

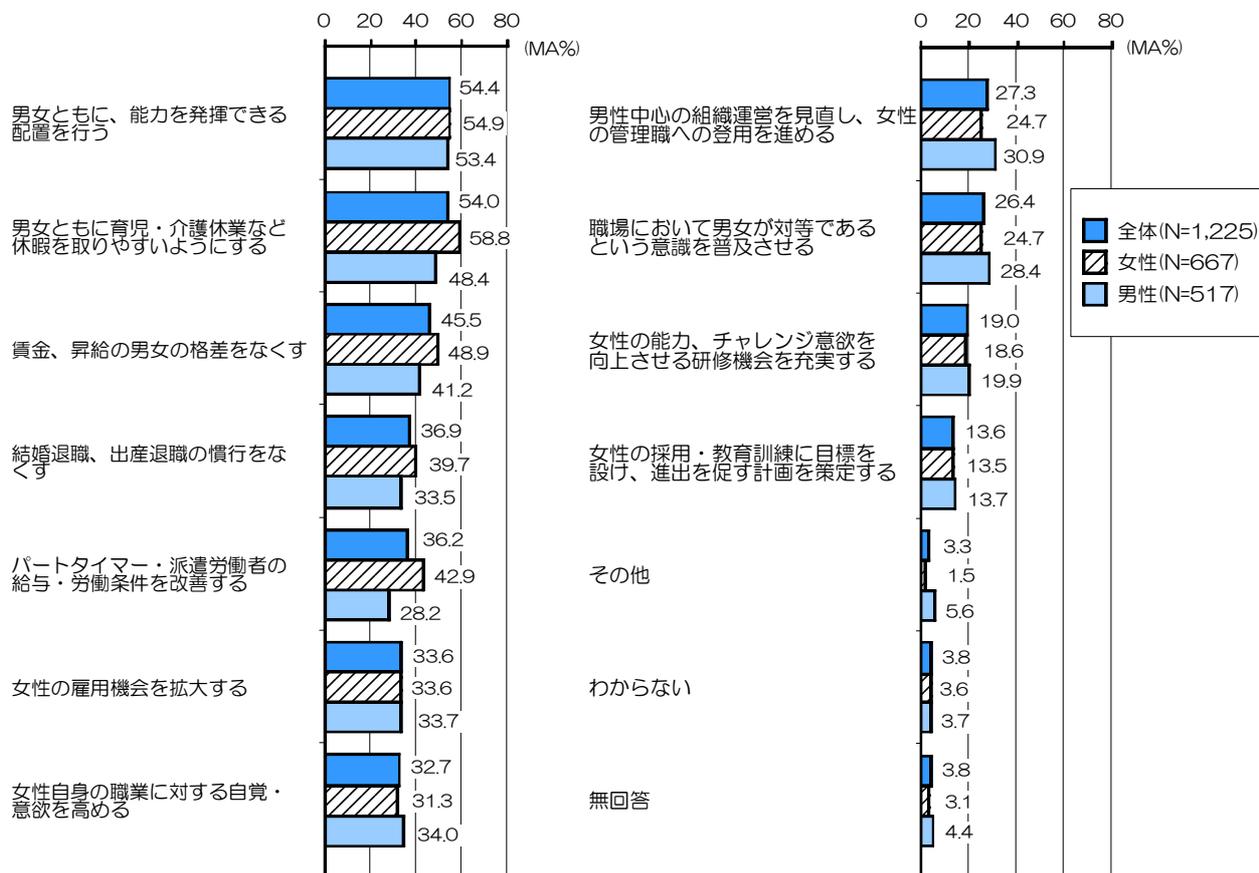
○40歳代以上の女性の9割以上が「年齢制限」、約半数が「健康や体力の不安」を気がかりなこととしてあげている。

就労の際に気がかりなことについて、女性のみ、年齢別にみると、40歳代以上では「年齢制限」が94.6%と最も高く、次いで、「自分の健康状態や体力に不安がある」が48.6%、「自分のしたい仕事に就けるか」が27.0%となっている。20～30歳代では、「家事、子育て、介護との両立ができるか」が75.0%と最も高く、次いで、「賃金など、望む労働条件が得られるか」が40.9%となっている。また、「保育所（園）、学童保育を利用できるか」が29.5%で40歳代以上と比べ20ポイント以上高くなっている。（図5-6②-1）

5-7 男女が対等に働くために必要なこと

問24 男女が対等に働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるもの全てに○印)

図5-7 男女が対等に働くために必要なこと



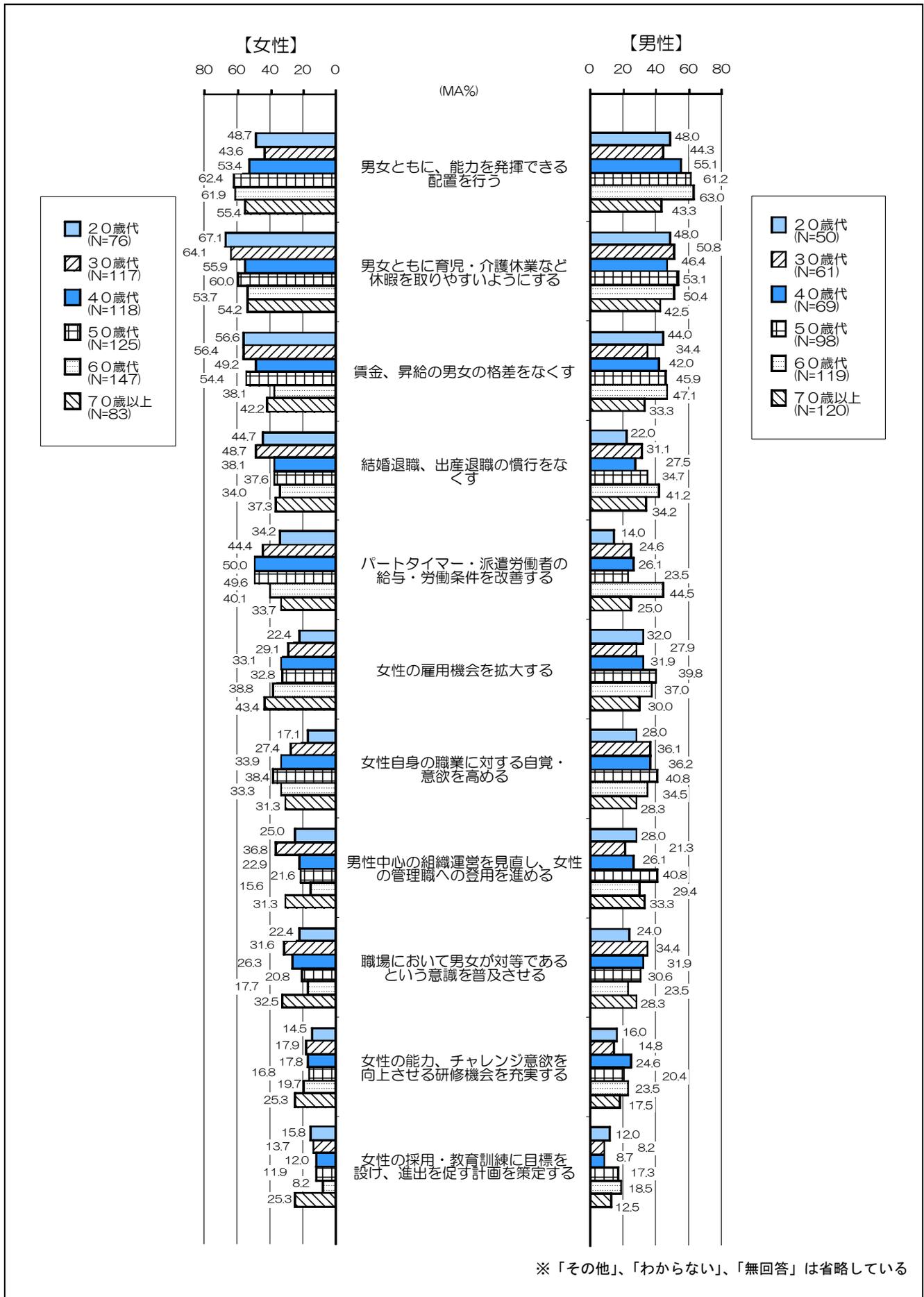
《ポイント》

- 全体で、「男女が能力を発揮できるような配置」、「育児・介護休業などを取りやすくする」等の意見が半数以上と多い。
- 女性では、「育児・介護休業などを取りやすくする」、「賃金、昇給の男女格差をなくす」や「パートタイマー・派遣労働者などの待遇改善」をあげる人が多い。

男女が対等に働くために必要なことについて、全体では、「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」が54.4%と最も高く、次いで、「男女ともに育児・介護休業など休暇を取りやすいようにする」が54.0%、「賃金、昇給の男女の格差をなくす」が45.5%となっている。

性別にみると、ほとんどの項目で女性の方が割合は高く、「男女ともに育児・介護休業など休暇を取りやすいようにする」で10.4ポイント、「賃金、昇給の男女の格差をなくす」で7.7ポイント、「パートタイマー・派遣労働者の給与・労働条件を改善する」で14.7ポイント女性が高くなっている。逆に、「男性中心の組織運営を見直し、女性の管理職への登用を進める」で6.2ポイント、「職場において男女が対等であるという意識を普及させる」で3.7ポイント男性が高くなっている。(図5-7)

図5-7-1 性年齢別 男女が対等に働くために必要なこと

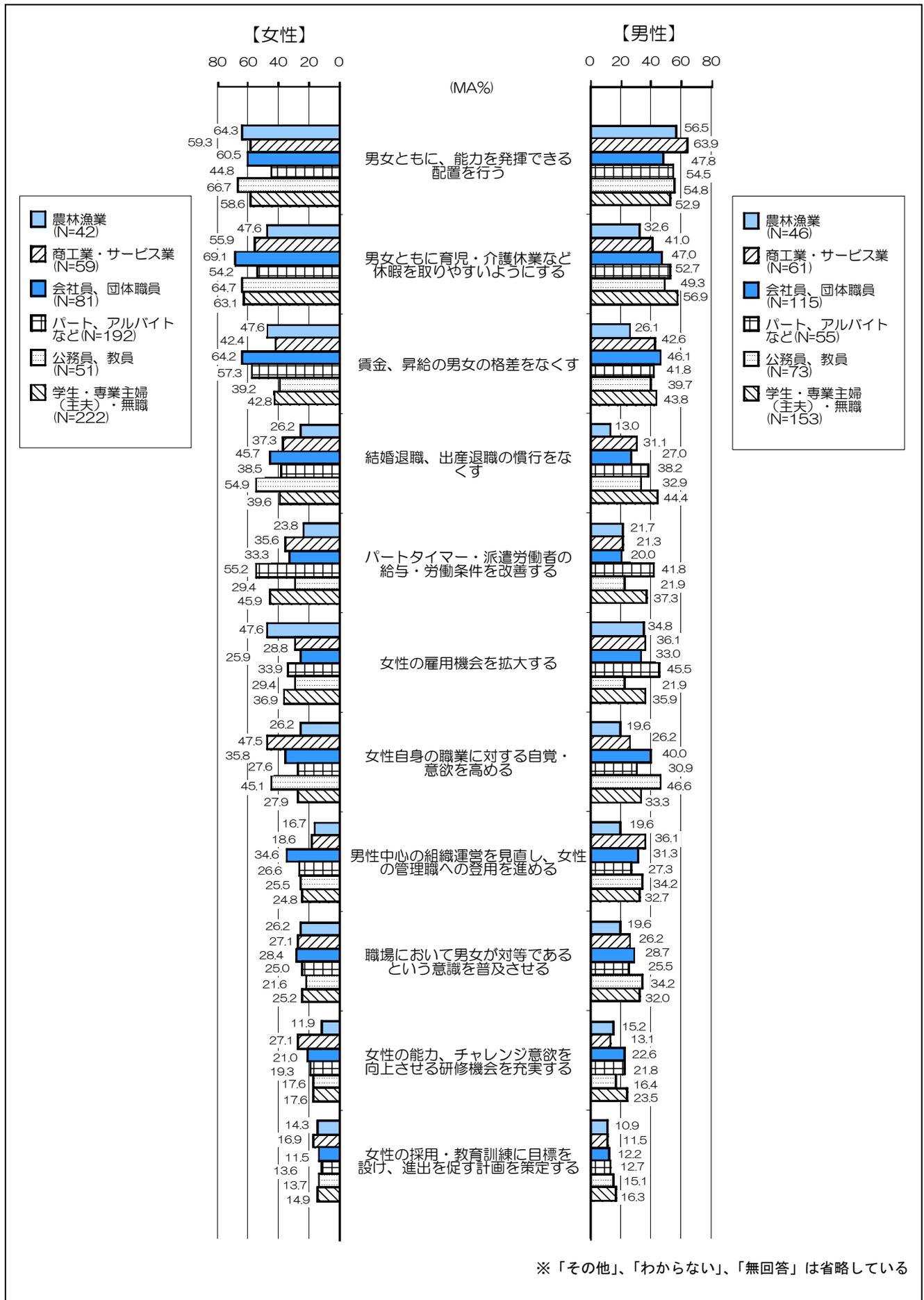


《ポイント》

- 「男女が能力を発揮できるような配置を行う」という意見は男女とも、50～60歳代で6割以上と多い。
- 女性では、「男女ともに育児・介護休業などを取りやすくする」、「賃金などの格差をなくす」といった意見が若年層で割合が高く、高年齢層ほど減少している。

性年齢別にみると、女性では「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」、「女性の雇用機会を拡大する」では年代が上がるほど割合は高くなっている。「男女ともに育児・介護休業など休暇を取りやすいようにする」は若年層で高く、30歳代以下の年代で6割以上となっている。男性では「結婚退職、出産退職の慣行をなくす」は年代が上がるほど割合は高くなっている。全体的に割合は高年齢層で高く、特に、60歳代は他の年代と比べ高くなっている。(図5-7-1)

図5-7-2 職業別 男女が対等に働くために必要なこと



《ポイント》

- 「賃金などの格差をなくす」といった意見は、男女とも「会社員、団体職員」で割合が高い。
- 「結婚、出産退職の慣行をなくす」といった意見は、女性では「公務員、教員」で割合が高い。

職業別にみると、「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」は女性では、「公務員、教員」、「農林漁業」、「会社員、団体職員」で6割以上と高いが、男性では「商工業・サービス業」が63.9%と最も高い。「賃金、昇給の男女の格差をなくす」では男女とも、「会社員、団体職員」が高くなっているが、「パート、アルバイトなど」では女性は57.3%と高いのに対し、男性は41.8%にとどまっている。「結婚退職、出産退職の慣行をなくす」では女性は「公務員、教員」で54.9%と最も高いが、男性では「学生・専業主婦（主夫）・無職」が44.4%と最も高い。（図5-7-2）